



環境社会報告書 2007



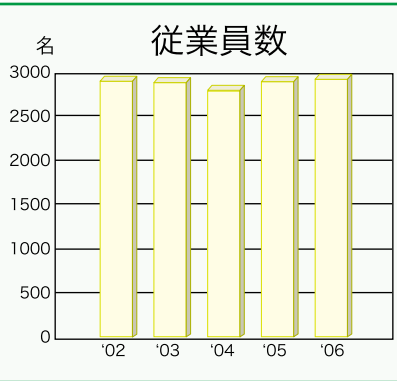
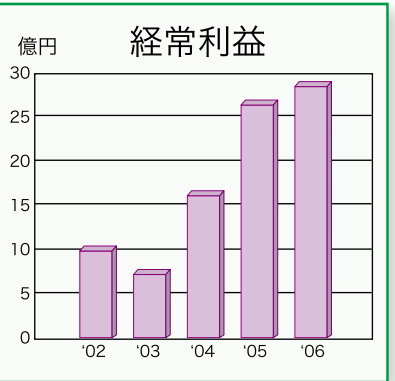
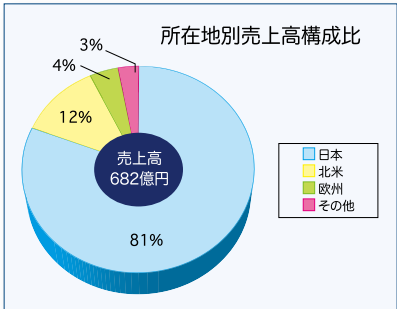
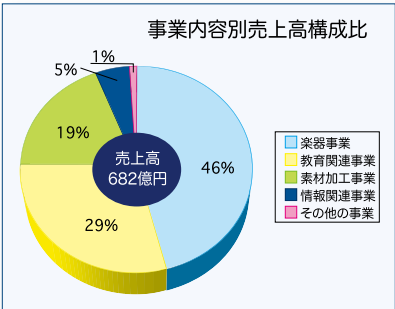
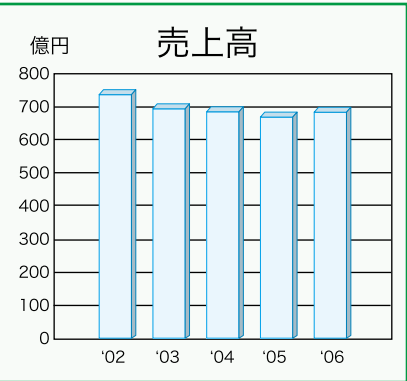
カワイグループの事業と会社の概要

社 名 株式会社河合楽器製作所
本 社 静岡県浜松市中区寺島町200番地
創 立 1927年（昭和2年）8月9日
代表者 代表取締役社長 河合弘隆
資本金 66.09億円（2007年3月末現在）

売上高	年 度	2004 年度	2005 年度	2006 年度
	単独（百万円）	54,338	57,104	59,554
	連結（百万円）	68,376	66,776	68,234

従業員数	年 度	2004 年度	2005 年度	2006 年度
	単独（名）	1,936	2,039	1,955
	連結（名）	2,782	2,889	2,916

カワイグループ 17 社
連結子会社
持分法適用子会社 5 社



当社グループの主な事業

楽器事業

ピアノ、電子楽器、楽器付属品、楽器玩具の販売
及び楽器調律・修理の役務提供業務
国内での販売
全国直営店・デパート・販売代理店
(株)ディアパソン 他 4 社

海外での販売

カワイアメリカコーポレーション
カワイヨーロッパ GmbH
カワイカナダミュージック Ltd.
カワイオーストラリア PTY.Ltd.
河合貿易（上海）有限公司
カワイ英国 Ltd.
カワイオランダ B.V
ミディミュージックセンター Inc.
海外販売代理店及び商社

楽器の調律・修理

調律サービス室

楽器の保管・配送

業務部 物流室

楽器の国内での製造

(株)河合楽器製作所 舞阪工場
(株)河合楽器製作所 竜洋工場
メルヘン楽器(株)

楽器の海外での製造

PT. カワイインドネシア
河合楽器（寧波）有限公司
カワイアジアマニファクチャリング SDN,BHD

教育関連事業

音楽教室・体育教室の運営、教材販売・楽譜・
音楽教育用ソフトの製造及び販売

素材加工事業

電子電気部品用材料、自動車部品用材料、防音室、
音響部材の製造及び販売
金属異形圧延加工品の製造 カワイ精密金属(株)
自動車部品用材料の製造 (株)カワイハイパーウッド
防音室・音響部材の販売 (株)カワイ音響システム

情報関連事業

OA 機器の販売修理及びソフトの販売、
情報処理事務サービス事業
(株)カワイビジネスソフトウェア

その他事業

金融関連事業、保険代理店事業等 (株)カワイアシスト



編 集 方 針

内 容

カワイグループにおける環境活動側面に加え 2003 年版からはコンプライアンス等社会的側面を掲載し企業における社会的責任を充実させ 2004 年からタイトルも「環境報告書」から「環境社会報告書」に変更いたしました。
なお経済側面につきましては概要を左頁に、経営計画等を「社会性報告」の中へ記載し、カワイのマネジメントへの取組みを報告しました。経済側面の詳細につきましては当社ホームページや「有価証券報告書」をご参照願います。

対 象

お客様、お取引先、従業員、株主・投資家、地域住民・NGO、行政・国際機関など多様なステークホルダーの皆さまを対象としています。

2007 年版について

- ・2007 年は創立 80 周年のため、80 周年に関する内容を「80 周年記念」として記載しました。
- ・出来得る限り各項目ごとに方針（ポリシー）を記述し、皆さまにカワイの取組みをわかりやすく伝えるように努めました。
- ・事業活動に伴う環境配慮については環境側面毎に纏めました。
- ・関連資料は資料編にまとめました。
- ・記載内容の信頼性確保のため自己評価を実施致しました。
- ・また下記のガイドラインを参考に致しました。
- ・環境省「環境報告書の信頼性を高めるための自己評価の手引き【試行版】2006」
- ・環境省「環境報告書ガイドライン（2003）」
- ・環境省「事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン 2002」
- ・経産省「ステークホルダー重視による環境レポーティングガイドライン 2001」
- ・客観性を高めるため第三者意見書を掲載しました。

報告対象期間

- ・2006 年度（2006 年 4 月～2007 年 3 月）を主体としていますが、一部重要な事項については 2007 年 4 月以降の最新情報も含んでいます。
- ・集計方法の見直しなどにより既報データを一部修正し掲載した項目・数値があります。

報告対象組織

- ・(株)河合楽器製作所 本社・舞阪工場・竜洋工場
- ・メルヘン楽器(株)
- ・(株)カワイハイパーウッド
- ・カワイ精密金属(株) 本社・浜松工場/松本工場

報告書発行履歴と次回発行予定

- ・環境報告書 2001 2001 年 12 月
 - ・環境報告書 2002 2002 年 11 月
 - ・環境報告書 2003 2003 年 10 月
 - ・環境社会報告書 2004 2004 年 11 月
 - ・環境社会報告書 2005 2005 年 09 月
 - ・環境社会報告書 2006 2006 年 09 月
 - ・環境社会報告書 2007 2007 年 09 月
- 次回は 2008 年 9 月を予定しています

◎はじめに	
カワイグループの事業と会社の概況	1
編集方針／目次／ホームページアドレス	2
社長コミットメント	3
カワイの経営の理念、行動指針	
◎80 周年記念	
コーポレート・デザインの刷新について	4
カワイグループのあゆみ	5
環境に配慮した技術のあゆみ	6
◎環境報告	
カワイの環境への取組み	
地球環境憲章／カワイ環境方針	7
カワイの環境推進組織	
環境経営	
2006 年度の環境目標と実績	8
環境会計	9
事業活動に伴う環境配慮	
木材調達ガイドライン	10
グリーン調達	
化学物質に関する環境配慮	11
温暖化対策	12
廃棄・再資源化	14
容器包装リサイクル法	
リサイクル・リユース	
環境パフォーマンス	
マテリアルバランス 2006	15
法規制の順守	17
◎社会性報告	
経営計画	18
新中期経営計画	
第 2 次中期経営計画	
コーポレート・ガバナンス	19
組織で働く全ての人との関係	20
お客様との関係	
お客様窓口	22
カワイヘルスプロモーションサポートシステム	
社会貢献活動	23
環境コミュニケーション	
情報発信	24
地域活動への参画	25
◎資料編	
環境負荷サイト別一覧	27
第三者意見	28
自己評価結果報告	29
2006 年度アンケート結果	
2007 年度アンケートのお願い	30

人に感動を与えるものすべてを創りたい

「この手で、世界一のピアノを創りたい」日本のピアノの育ての親とも称された初代社長河合小市は、熱い夢を胸に、自らの天分と情熱のすべてをピアノづくりに捧げ、今日のカワイの礎を築きました。創業以来私たちはより良い楽器作りと音楽文化への貢献を目的として企業活動を続けてきました。

音楽にふれる喜び、感動するところを人々にと願い、カワイは楽器づくりにとどまらず、音楽教育、音楽文化の育成にも力をつくしてまいりました。事業内容も80年を経過し、ピアノ、電子楽器、その他楽器、音楽教室を初めとした教育関連事業、ピアノを生み出すための技術から派生した金属事業、塗装事業、音響事業、情報関連事業と多彩に広がっています。創業時の夢は、大切に受け継がれ、果てしなくひろがりつづけています。

また、「より良い楽器はより良い環境でつくられる」との考えのもと、1980年環境に配慮した「森の中の緑の工房」として竜洋工場を建設し、1997年楽器業界で世界初ISO14001の認証を取得しました。

文化を大切にし、環境を大切とする基本姿勢は、経営行動指針の「自然との共生を大切にし、社会に役立つ活動を積極的に行おう」に受け継ぎ、「第2次中期経営計画」の主要施策に盛り込み、積極的に取り組んでいきます。

2006年3月で終了しました「新中期経営計画」の遂行により、企業体質の改善が進みましたので今年4月からスタートしています「第2次中期経営計画」では着実な成長戦略への転換をめざします。本計画では、経営構造の革新、持続可能な成長、恒常的な利益確保を基本方針に掲げ、当社の強みを最大限に活かし、限られた経営資源を成長市場、成長分野に効果的に投入することにより安定的な利益を確保し、着実な成長を図ってまいります。

また、CSR経営の大切さを認識し、推進することで企業価値を向上させる取り組みを「第2次中期経営計画」の課題のひとつとして取り組んで参ります。

「環境への配慮」としてCO₂排出量を現在より15%削減、廃棄物排出量15%削減に取り組んで参ります。

「人に感動を与えるものすべてを創りたい」、創業80周年を迎え、社会や産業の構造が大きく変化し続ける新しい時代に向けてわたしたちは、これからも人々の生活文化、環境に貢献していくために音楽の領域を超え、より広い分野で新たな感動づくりをめざして参ります。今後とも皆様のご理解とご協力をいただけますようこの環境社会報告書がステークホルダーの皆様とのコミュニケーションツールとなれば幸いに存じます。

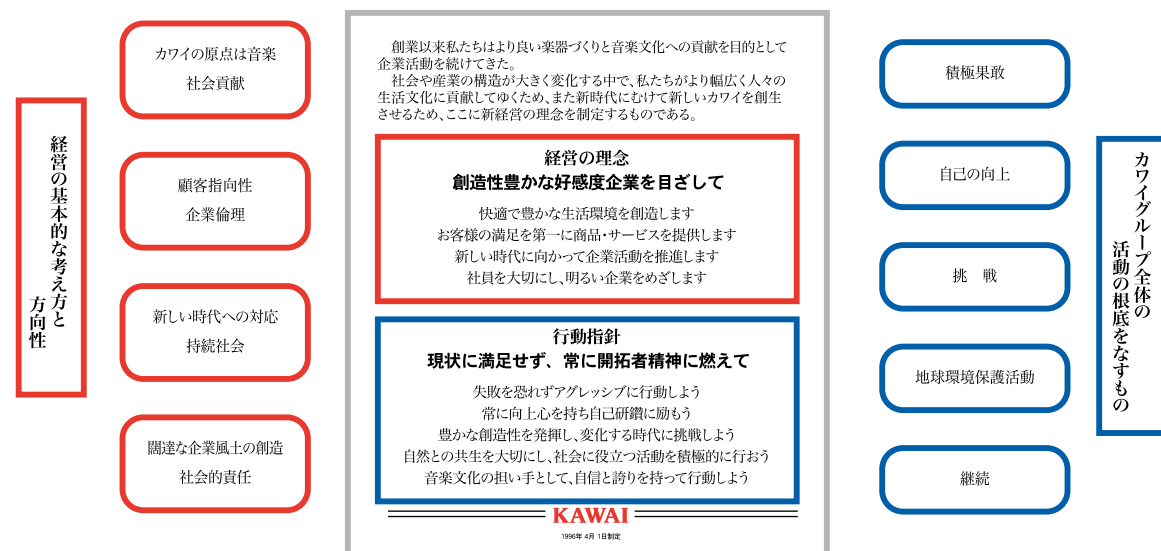
どうぞ忌憚のないご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

取締役社長

河合弘隆



カワイの経営の理念・行動指針



創立80周年を迎えるにあたり、企業ブランド認知度とブランドイメージのさらなる向上を図るため、社名ロゴマークの一新を初めとしたコーポレート・デザインを刷新しました。

社名ロゴマークの一新

当社が経営の理念として掲げている「創造性豊かな好感度企業をめざして・・・」の具現化を図り、従来のロゴマークに対して、よりスリムで軽快なデザインを採用し、親近感のある明るい企業をめざします。

株式会社 河合楽器製作所
KAWAI MUSICAL INSTRUMENTS MFG. CO., LTD.

KAWAI
もっと伝えたい、感動を。

ブランドプロミス、コーポレート・スローガンの制定

ブランドプロミスとは「KAWAI」ブランドの約束として、「提供する価値を明確にする綱領」であり、社員個人個人が共通して持つ価値観の拠り所となるものです。そして当社の様々な事業活動に一貫した方向性を与え、ステークホルダーに対して当社の基本理念を明確に伝えます。さらにブランドプロミスを簡潔に表現したものがコーポレート・スローガンです。

ブランドプロミス

私たちは、音楽を通じて、感動と満足をお届けします。

ピアノづくりに培ったこだわりと情熱をもって、皆様にとってかけがえのないパートナーを目指します。

これまでも、そしてこれからも「感動製造業」であり続けるために。

コーポレートスローガン

もっと伝えたい、感動を。



80周年記念活動の一例を紹介します。

80周年記念カワイコンサート

創立80周年を記念したコンサートを東京、大阪、浜松の3会場にて開催します。1971年に日本中の人々に良い音楽をというポリシーのもとスタートしたカワイコンサート。発足以来、全国各地で2,000回以上にも及ぶ公演を行ってきました。

インドネシア植林活動

楽器生産工場のあるインドネシアへ創立80周年を記念して、植林活動を実施します。来年以降も植林活動を継続していきます。

DP1 国内販売

高速CPUを内蔵したパソコンを音源として搭載し、かつてない高品位サウンドを実現したフラッグシップデジタルピアノ“DP1”を創立80周年を機に日本での発売に至りました。



創立80周年のカワイの事業沿革と環境への取り組みの歴史を
公害防止の時代、環境保全の時代、環境経営の時代に分け記載しました。

事業沿革

1927 河合小市 河合楽器研究所を創立
ピアノの製造・販売を開始
1929 河合楽器製作所と改称

1935 合名会社河合楽器製作所と改組

1951 株式会社河合楽器製作所と改組

1955 河合小市 逝去 河合滋 社長に就任
1956 カワイ音楽教室を創設
1961 ピアノ組立工場として舞阪工場完成
1963 アメリカにカワイアメリカコーポレーションを設立
1966 カワイ音楽教室中央講師養成所
(現カワイ音楽学園) を創設
1967 カワイ体育教室を創設

1976 西ドイツにカワイドイツランド GmbH を設立
1979 西ドイツにカワイヨーロッパ GmbH を設立
1980 金属圧延加工のカワイ精密金属(株)を設立
1980 『森の中の緑の工房』 竜洋工場完成
1981 カワイオーストラリア PTY.Ltd. 設立
1984 (株)カワイビジネスソフトウェア設立
1988 アメリカにメディミュージックセンター Inc. を設立
1989 河合弘隆 社長に就任 河合滋 会長に専任
1991 マレーシアにカワイアジア
マニュファクチャリング SDN.BHD を設立
1996 新経営の理念、行動指針制定
1997 カワイ精密金属(株)浜松事業所 ISO9002 認証取得

1998 (株)カワイハイパーウッド設立

2001 インドネシアに PT. カワイインドネシアを設立

2002 中国に河合貿易(上海)有限公司を設立
2002 カワイ倫理規範、倫理行動基準制定

2004 中国に河合楽器(寧波)有限公司を設立
2005 竜洋工場 ISO9001 認証取得

2007 創立80周年

環境活動



竜洋工場航空写真

1975 生産技術部内に公害課設置 カワイの環境元年
1978 生産本部 環境管理課に改めグループ全体の管理

1980 『森の中の緑の工房』 竜洋工場完成

1994 地球環境憲章制定 シンボルマーク決まる
1994 全社的な推審組織の地球環境委員会発足
1996 環境推進室に名称変更
1997 竜洋工場で ISO14001 認証取得 楽器業界で世界初
1997 舞阪工場「静岡県労働基準局長 優良賞」受賞
1998 舞阪工場で ISO14001 認証取得
1998 竜洋工場「エネルギー管理優良工場」として
中部通商産業局長表彰
1999 メルヘン楽器で ISO14001 認証取得

2001 タイプⅢ環境ラベル「製品環境宣言」JEMAI 開示
2001 舞阪工場「危険物優良事業所」表彰
2001 環境報告書 2001 発行、環境会計導入

2002 環境報告書 2002 発行
2002 環境経営学会「環境経営格付」評価
2003 環境報告書 2003 発行 静岡エコステージ研究会
にて第三者レビュー
2003 工場統廃合によるインフラの整備
2003 木屑ボイラーの廃止
2004 環境社会報告書 2004 発行
2005 竜洋工場が緑化優良工場として
(財)日本緑化センター会長奨励賞 受賞
環境社会報告書 2005 発行
2006 河合楽器が静岡県緑化推進協会から
「緑の募金」の感謝状
木材調達ガイドラインの開示
環境社会報告書 2006 発行

生物多様性の保全技術

人工象牙鍵盤素材「ファインアイボリー」ゾウ1万頭の保護

象牙鍵盤は、象牙の適度な吸湿性と摩擦抵抗により、ピアノ演奏者にとって最適な材料といわれていましたが、ゾウの保護対策のため、象牙の輸出入が制限され、使用困難になってきました。

そこで、ピアノの鍵盤に使用可能な象牙の代替材料を開発に着手しました。当時、安価な鍵盤材料としてプラスチックの亚克力樹脂が用いられていましたが、亚克力樹脂の鍵盤は、吸湿性がなくかつ、摩擦力が少ない欠点があり、象牙の代替としては不向きでした。また、人工象牙として動物性タンパク質のミルクカゼイン材も用いられていましたが、作業効率が悪い問題がありました。そこで、セルロースアセテート樹脂をベースに適度な吸湿性と摩擦力を持ち、作業性に優れた鍵盤材料の開発を目指し、1987年人工象牙鍵盤素材「ファインアイボリー」を開発しました。「ファインアイボリー」は、ピアノ演奏者に弾いてもらい感触を確かめてもらったところ、程よい吸放湿性と摩擦抵抗がマッチして、象牙を超えた演奏性を持つ素材として高い評価を得ることができました。なお、「ファインアイボリー」の基本材料は、CO₂ ニュートラルな植物系素材を原料としており、CO₂ 削減の面でも優れています。演奏者へ快適な演奏環境を提供したいとの思いと、ゾウの保護との思いからの材料開発を行ったことが、CO₂ 排出抑制という環境面にも貢献もできました。



この材料開発により、試算するとこれまでに約1万頭分のゾウの保護に貢献したことになります。

ファインアイボリーの特徴

1. 感触が暖かい
2. 爪と同等の硬度を有する
3. 吸放水性がある
4. 摩擦係数が本象牙に近い
5. 吸音性があり、爪などのノイズが少ない
6. 帯電性が少なくホコリが付きにくい
7. 耐溶剤性に優れる
8. 植物由来の原材料 (CO₂ ニュートラル材料)

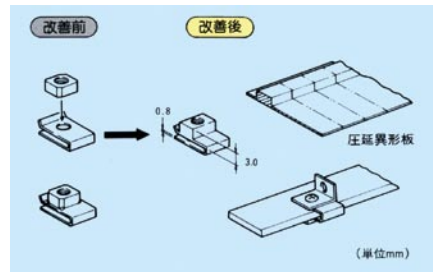
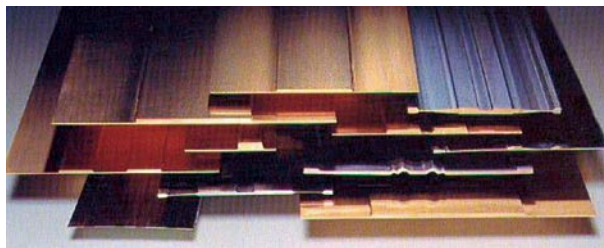
なお、2004年11月に財団法人発明協会から関東地方発明奨励賞を受賞しました。

省資源・省エネ技術

圧延異形金属加工技術

金属事業はオルガンやハーモニカのリード加工の改善からスタートしました。オルガンのリードは金属板がリード部(薄い部分)と保持部(厚い部分)を有する異形状になっており、このリード部を切削加工して製造していました。しかし、この切削加工にて製造されたリードは切削部分で折れやすい欠点がありました。また、切削による屑は50%以上あり、ロスが大きな加工方法でもありました。そこで、昭和34年から加工技術の研究を開始し、切削加工から圧延加工にて異形金属板を製造する技術を開発し、特許を取得しました。

しかしこの異形圧延加工技術が完成したころにはオルガンは衰退してピアノの時代に移りつつあり、リードの折損、ロス削減という当初の目的に意味を見いだせなくなっていました。そこでこの応用を様々な分野に見出すべく活動した結果、当時黎明期であった半導体に適用できることが明らかになり、昭和50年代にはパワートランジスタリードフレーム用やコネクター用など電子部品用金属加工技術として高い評価を得、受注は一時は1000 t / 月を超えました。また、2部品を溶接して作っていた部品を圧延異形板を用いることで溶接が不要となり部品加工時のエネルギー消費を減らすことにも貢献しています。本技術により材料ロスは50%から15%へと削減でき、廃棄物削減、省資源に貢献しています。昭和54年には科学技術庁長官賞、弁理士会会長賞を受賞し、更にロスの削減、加工可能な金属板の種類を増やすための技術開発をすすめています。またその高い品質が改めて評価され、応用分野も電子部品用から自動車向けへと展開し、更なる用途拡大が期待されています。

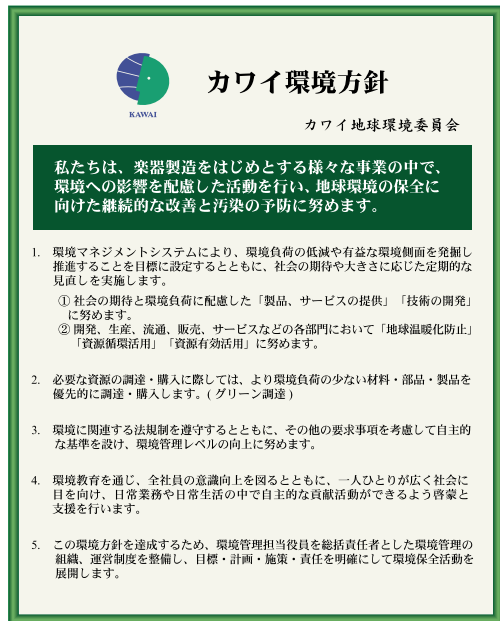


カワイ地球環境憲章に基づく環境方針で
オールカワイの推進組織により環境保全活動を展開します

環境方針と地球環境憲章

カワイ環境方針

河合楽器地球環境委員会はこの「地球環境憲章」を受け「環境方針」を制定しています。今年度も見直しを図りました。《有益な環境側面の発掘》《地球温暖化防止》《資源循環活用》《資源有効活用》《グリーン調達》等の推進に全社一丸となって邁進します。



地球環境憲章

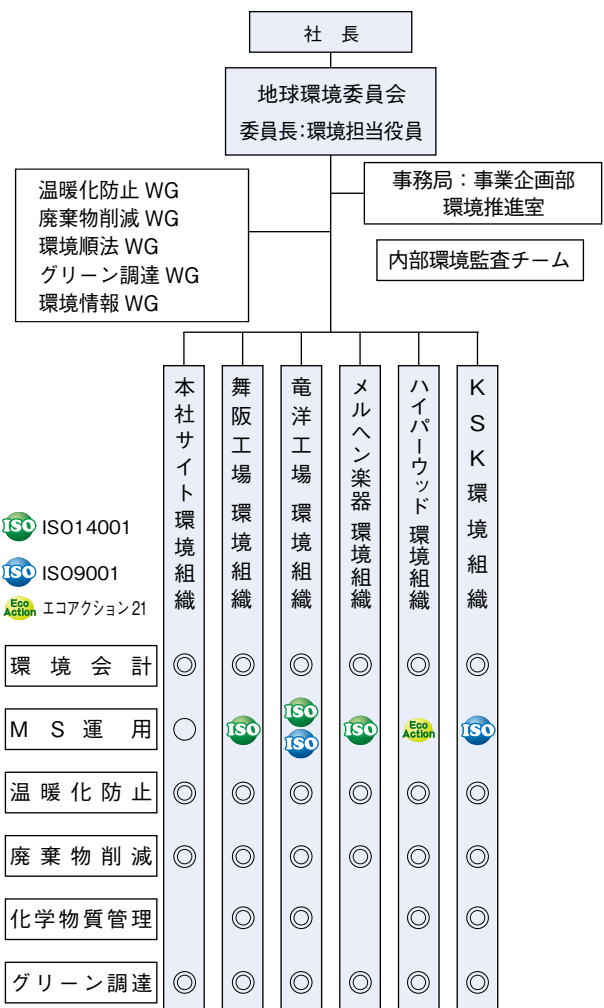
カワイはすばらしい地球環境を後世に伝えるためには、総合的かつ継続的な取り組みが必要であると認識しています。

世界の良き企業市民として環境の保全に努めつつ、人と地球にやさしい優れた商品を通じて社会からの信頼と共感の道を進むために「地球環境憲章」を1994年に制定致しました。



カワイの環境推進組織

環境経営を推進する組織として、1994年に環境担当役員を委員長とする地球環境委員会を設置し、環境保全に関する全社環境方針や目的・目標を設定し活動しています。毎年環境月間の6月には各サイトの昨年度実績及び当年度の目標を報告する全体会議を開催しており、2006年度は『環境の日』の6月5日(月)に実施致しました。



※舞阪工場は、事業所統廃合により、9月24日、登録解除いたしました。
なお、舞阪工場は竜洋工場の舞阪事業所事業所として、ISO14001を取り組んでいます。

環境監査

当社では、ISO14001規格で要求されている継続的改善のP・D・C・Aをまわすため、定期的に「外部審査」「内部環境監査」を実施しています。

外部審査

認証取得サイトでは、認証機関により毎年のサーベランス審査、3年毎の更新審査でシステムが有効に機能しているかが審査されます。

竜洋工場 9年目 更新審査 2006年8月

運用23項目の内、22項目満足できました。
次年度は新たな3カ年計画のスタート年度として目標値を達成するよう努めます。

2006 年度の環境目標と実績 および次年度目標

2006年度は環境3カ年計画の最終年度でした。運用23項目は、是正処置を行った項目を含め、22項目は満足できる結果となりました。化学物質使用量については今一步の状況で終わりました。
次年度は、新たな3カ年計画のスタート年度として目標値を達成するよう努力します。

項 目		基準年	目的年	2006 年度			次年度	
				目標	実績	評価	基準年	目標
地球温暖化防止	* エネルギー原単位を前年比 3%減	2005	2006	-3%	-9%	◎	2006	-1%
	* 電力量原単位を前年比 3%減	2005	2006	-3%	-7%	◎		
	* 電力量を絶対値比 5%削減	2005	2006	-5%	-5%	◎		
	* エネルギー CO ₂ 排出量を 5%削減	2005	2006	-5%	-7%	◎	2006	-5%
	物流輸送に伴う CO ₂ 排出量を 20%削減	2003	2006	-20%	-28%	◎		
資源循環活用	廃棄物 (埋立焼却) 原単位を 9%削減	2003	2006	-9%	-49%	◎	2006	-3%
	廃棄物 (埋立・焼却) 排出量を絶対値比 10%削減	2003	2006	-10%	-50%	◎	2006	-10%
	再資源化比率を 60%以上とする	2003	2006	運用	86%	◎		運用
資源有効活用	水使用量を 15%減	2003	2006	-15%	-19%	◎	2006	-3%
	化学物質使用量を 10%減	2003	2006	-10%	54%	◎	2006	-3%
人材育成	内部監査人ブラッシュアップ教育			100%	100%	◎		運用
	階層別環境教育			100%	100%	◎		運用
	法定資格者の 2 倍育成			100%	100%	◎		運用
順法	環境法規制への対応			100%	100%	◎		運用
	罰金科料件数ゼロ件			0 件	0 件	◎		0 件
地域貢献	地域イベントへの参加			100%	100%	◎		運用
コミュニケーション	環境工場見学の受け入れ (竜洋工場)			300 人	865 人	◎		500 人
	近隣からの訴訟・苦情			0 件	0 件	◎		運用
環境配慮製品	LCA 評価による環境配慮設計 鉛削減			100%	98%	◎		運用
	環境影響物質の削減			RoHS 規制対応	100%	◎		運用
グリーン調達	GPN ガイドラインの活用			100%	100%	◎		運用
	カワイガイドラインの運用			運用	運用	◎		運用
	サプライチェーンマネジメント			取引率 40%	取引率 40%	◎		運用

*：今年度は正項目

◎ 達成 ◎ ひとつ

3ヶ年計画の主な目標（基準年2006年度）

CO₂排出量・・・15%削減 廃棄物排出量・・・15%削減

指 標	単 位	基準年 2003	前年度 2005	当年度 2006	基準年比 [%]	前年比 [%]
環境経営指標	ton-CO ₂ /百万円	0.19	0.22	0.20	108.7%	90.6%
エネルギー原単位	GJ/百万円	3.20	3.83	3.48	108.9%	91.1%
電力量原単位	GJ/百万円	2.65	3.12	2.91	109.8%	93.3%
廃棄物（埋立・焼却）原単位	kg/百万円	7.38	5.70	3.77	51.1%	66.1%
廃棄物（リサイクル）原単位	kg/百万円	18.21	24.74	24.05	132.0%	97.2%
再資源化率		71.2%	81.3%	86.3%	121.3%	106.1%

環境経営指標：CO₂排出量／売上高
原単位：売上高100万円に対する指標



※ブラッシュアップ教育：「ブラシで手入れをする、塵を払う」等の意味から、忘れかけた知識の再学習、新たに改訂された情報を学習すること。

環境会計は環境経営のものさしとして捉えています。

カワイでは環境会計を、環境経営の定量的指標のものさしとして捉え、2000年度から環境省のガイドラインに基づいて集計を始めました。

2006年度も昨年と同様の基準、対象範囲としました。

当社の環境会計はまだ発展途上であり、保全コスト効果の把握・集計にとどまっていますが、指標化・活用化を図り、環境経営に役立てていきます。

参 考 書 …………… 環境省環境会計ガイドライン 他
対象サイト …………… カワイグループ国内 7 サイト
対 象 期 間 …………… 2006 年 4 月～2007 年 3 月

環境保全コスト

分 類	2006 年度の事例	2004		2005		2006	
		投資額	費用	投資額	費用	投資額	費用
事業エリア内コスト							
公害防止コスト	改修集塵機移設等公害防止に掛けたコスト	382	29,114	32,145	15,947	6,010	31,301
地球環境保全コスト	蒸気自動送気システム、IR 乾燥機など	21,000	842	51,597	1,524	182,520	3,889
資源循環コスト	廃棄物のリサイクル・処分のコスト		69,782		76,946		68,179
上・下流コスト	ピアノのリサイクル、グリーン調達	10,065	18,101	9,890	34,195	7,419	33,283
管理活動コスト	報告書作成費用、EMS の運用費、環境測定費用等		23,874		49,283	5,297	65,527
研究開発コスト	研究開発費	79,714	6,754	116,430	11,438	76,000	4,766
社会活動コスト	環境に特化した工場見学等への対応	6,550	6,104	2,980	6,793	0	6,139
環境損傷対応コスト	当年度ありませんでした		0		0		0
計		117,711	154,571	213,042	196,126	277,246	213,084
投資額と費用の総計			272,282		409,168		490,330

[単位：千円]

投資額 277 百万円、費用額 213 百万円となりました。

カワイグループ設備投資総額(2,976 百万円)に占める環境への投資割合は 9.3%でした。

環境保全効果

効果量は前年補正值と比較しています。

環境保全効果は負荷発生量の防止や抑制代替品への転換といった活動を項目ごとに集計したものです。2006 年度はインフラの整備により、エネルギー投入量、CO₂ 排出量、廃棄物処理量が削減されました。一部の事業所にて業容の拡大があり、塗料、洗浄溶剤の使用量が増大しました。

サーマルリサイクル燃料としての木屑がダイオキシン対策等によるボイラーの廃止に伴い廃棄物化したため、その量が増えています。廃棄物処理量 1,898 トンの内木屑は 1,020 トンあり、木屑の占める割合は 53.7%でした。またこの木屑は業者に委託し 100%再資源化しています。

実質経済効果は右表のとおりです。

エネルギー料金、廃棄物処理費ともに減少致しました。

また、保全コストの総計は 490 百万円で前年に比べ 81 百万円増大しました。昨年に比べ素材加工事業等の拡大とインフラ整備をしたことが要因です。

内 容	単 位	2005	'05 補正值	2006	増減量
INPUT					
エネルギー投入量	テラジュール	255	271	212	-59
水資源投入量	千 m ³	224	238	214	-24
化学物質取扱量	ton	195	207	217	10
OUTPUT					
CO2 排出量	ton-CO ₂	15,534	16,482	14,333	-2,149
製造段階	ton-CO ₂	14,918	15,828	13,813	-2,015
流通段階	ton-CO ₂	616	654	520	-134
廃棄物処理量	ton	2,032	2,156	1,898	-258

内 容	単位	2004	2005	2006	増減量
リサイクル売上高	千円	223,100	130,494	136,884	6,390
エネルギー料金	千円	367,770	403,747	384,616	-19,131
購入電力	千円	312,157	323,483	309,617	-13,866
化石燃料	千円	44,125	67,977	63,589	-4,388
用水料金	千円	11,488	12,287	11,410	-877
廃棄物処理費	千円	54,514	60,706	52,303	-8,403

*1 上・下流コスト及びリサイクル売上高の集計に変更があります。事業を独立会社から本体内へ組み入れた為会計方法に変更があります。

E M S：環境マネジメントシステムの略 事業者が自主的に環境保全に関する取り組みを進めるに当たり、環境に関する方針や目標等を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくシステム国際規格の ISO14001、環境省が策定したエコアクション 21 などがある。

サーマルリサイクル：物質の持っているエネルギーを熱として再利用する手段。1 つの例として、ボイラー燃料として使用し、ボイラーから発生する蒸気を利用する方法がある

グリーン調達の状況及びそのその推進方策

木材調達

ピアノの心臓とも言われる響板には厳選されたアラスカのスプルースが使われます。樹齢 150 ～ 400 年、高さが 60m にも達する針葉樹の巨木です。ピアノの響板には地上 6 ～ 20m の部分で木目がまっすぐかつ「ふし」のない所しか使えません。

このような貴重な森林資源の保護を念頭に、企業としてグリーン調達に取り組んでいます。

木材調達ガイドライン

(2006 年 6 月開示)

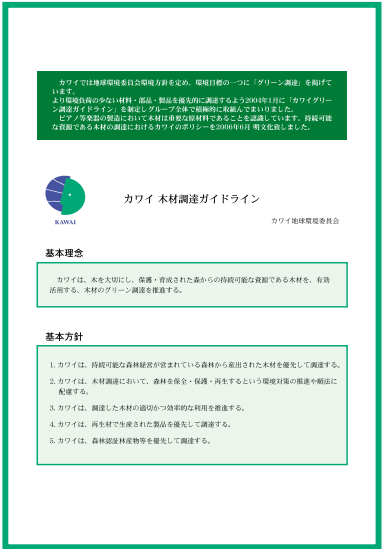
このたび持続可能な資源である木材の調達におけるカワイのポリシーを明文化致しました。

基本理念

カワイは、木を大切にし、保護・育成された森からの持続可能な資源である木材を、有効活用する、木材のグリーン調達を推進する。

基本方針

- カワイは、持続可能な森林経営が営まれている森林から産出された木材を優先して調達する。
- カワイは、木材調達において、森林を保全・保護・再生するという環境対策の推進や順法に配慮する。
- カワイは、調達した木材の適切かつ効率的な利用を推進する。
- カワイは、再生材で生産された製品を優先して調達する。
- カワイは、森林認証林産物を優先して調達する。



アラスカのスプルース
樹齢 250 ～ 260 年

グリーン調達

カワイでは調達・購入にあたり地球環境委員会環境方針に基づき、必要な資源の調達・購入に際しては、より環境負荷の少ない材料・部品・製品を優先的に調達・購入する『グリーン調達』にグループ全体で積極的に取り組んでいます。

グリーン購入法やグリーン購入ネットワーク (G P N) の基本原則に準じグリーン調達を推進し、環境負荷を総合的に低減し、地球環境の保全と循環型社会構築に積極的かつ継続的に貢献するよう活動しています。

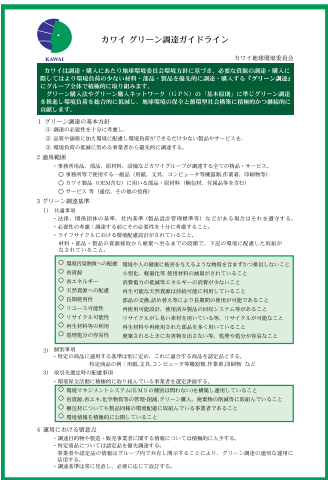
調達基準の共通事項を次のように定めています。

ライフサイクル における環境配慮設計がされていること
下記の環境に配慮した取組がなされていること

- ・環境汚染物質への配慮/省資源/省エネルギー
- ・天然資源への配慮/長期使用性/リユース可能性
- ・リサイクル可能性/再生材料等の利用
- ・処理処分の容易性

またサプライヤー選定時の配慮事項も次のよう定め購買部門でお取引先に対し対応をお願いしています

- ・環境マネジメントシステムを構築し運用していること
- ・省資源、省エネ、化学物質管理、グリーン購入等への取組
- ・梱包材についても環境配慮していること
- ・環境情報を積極的に公開していること



グリーン調達の基本方針や適用範囲、調達基準、サプライヤーに対する配慮事項などを定めています。

またこのガイドラインに基づいて文具類等の調達ガイドラインも別に策定されています。

化学物質に関する環境配慮

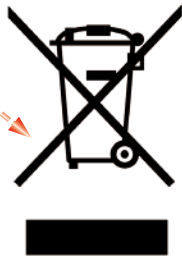
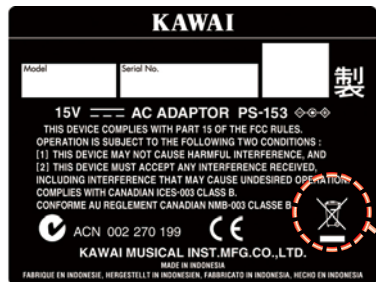
事業活動に伴う環境配慮

環境汚染物質への配慮

カワイでは地球環境に有害な化学物質を使わない・出さないようにするために、化学物質の管理に留意しています。特に EU の RoHS 指令にかかわる 6 物質については、2006 年 7 月以降に EU 域内で発売する製品に含有してはならないという指令に対しワーキンググループを発足させ、重点的に取組んできました。

2006 年 4 月からの EU 向け製品は RoHS 対応品となりました。

WEEE 指令への対応については、例えばドイツでは登録機関 EAR に対し生産者登録を完了、リサイクル業者の選定と契約も完了しています。2005 年 7 月生産品からシンボルマークを貼付することで対応し、現在は銘板上に表記しています。



製品の化学物質環境配慮

ピアノ、電子ピアノ、電子オルガンの木質系材料には、1980 年代より検討を重ね、低ホルムアルデヒド仕様の材料を使っています。

電子ピアノや電子オルガンの外装化粧材には、塩素樹脂と可塑剤を含む塩化ビニールシートが使われていましたが、カワイでは 1999 年から外装化粧材には塩化ビニールシートをより安全なオレフィン系の化粧シートに替えてきました。



- ・RoHS指令
2006 年 7 月から EU 加盟国では電気電子製品等へ鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、臭素系難燃剤の使用が制限されています。
- ・WEEE指令
EU で公布された使用済み電気電子機器のリサイクルに関する指令

化学物質への適正管理

カワイでは PRTR 法に基づき各サイト毎に PRTR 法対象物質の排出・移動量を算出し、報告しています。2006 年度は前年度に比べ取扱量で 23ton 増加となりました。金属事業の浜松・松本サイトでの業容拡大に起因しています。現在、対象物質を含まない金属洗浄用洗浄剤への代替、洗浄方法の改善を検討しています。

大気への排出は 12.0% でその大部分は塗料成分のトルエンが占めています。廃棄物としての移動量は 5.1% でした。

また、再資源化されたものが 47% あります。化学物質の利用効率化により、排出量は削減されました。

PRTR 対象物質結果				2006 年度 単位：[ton]				
第 1 種指定化学物質				取扱量		排出量	移動量	再資源
No.				2005	2006	大気	廃棄物	
63	キシレン	舞 阪 竜 洋 中 郡		14	6	6		
				2	2	2		
				5	2	2		
				8	2	2		
177	スチレン	舞 阪 竜 洋 中 郡		86	90	2	10	
				30	29	1	2	
				13	17	0	1	
				43	43	1	7	
200	口口口口口口 エチレン	浜 松 松 本		66	108	5	103	
				27	53	3	50	
				39	56	3	53	
227	トルエン	舞 阪 竜 洋 中 郡		29	14	13	1	
				2	3	2	0	
				19	9	8	1	
				8	3	2	0	
合 計				195	217	26	11	103
					100%	12%	5%	47%

* 大部分のスチレンはモノマーモノマーからポリマーに変わっています。

金属における環境配慮

金属事業においては大気中の水分や塩分が大敵です。そのために工場では外気の侵入を防ぐための塩害対策設備を設置しています。（カワイ精密金属㈱浜松工場）



また金属の洗浄に、かつてはトリクロロエタンを使用していましたがオゾン層破壊物質対策により 94 年にトリクロロエタンを全廃致しました。しかしながら既存洗浄装置の継続使用のため塩素系有機溶剤であるテトラクロロエチレンを余儀なく用いておりました。

代替洗浄技術を検討してまいりましたところ、その目途もつき逐次テトラクロロエチレン洗浄から、代替洗浄方法へ変更していきます。

温暖化対策

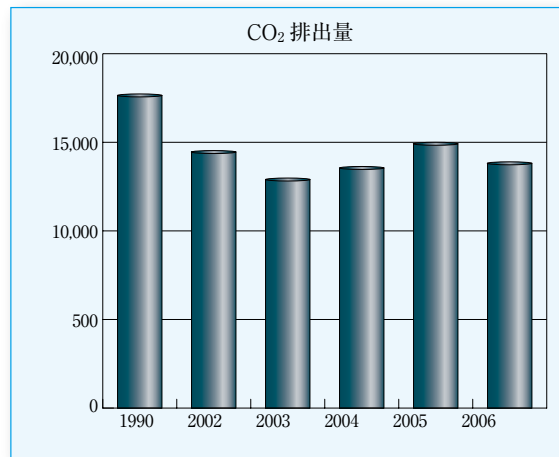
1990 年（京都議定書基準年）から 22% 削減。より一層の CO₂ 排出量削減を目指します。

地球温暖化防止への取組

カワイでは地球温暖化対策を環境経営の重点項目と位置付け、工場や事務所のエネルギー使用による CO₂ の排出や物流による CO₂ の排出削減を目的・目標に掲げ活動しています。

京都議定書の基準年である 1990 年度は 17,640 トンを排出していましたので当年度は 1990 年度に対し 21.7% の削減となっています。議定書に定めた 6% 削減については大幅に達成しています。

京都議定書の基準を超えて、より CO₂ の排出量を削減するため、2006 年度は目標値を前年度より 5% 削減する計画として活動に取り組み、7.5%、1,105ton-CO₂ 削減することができました。



年 度	1990	2002	2003	2004	2005	2006
排出量	17,640	14,453	12,898	13,547	14,918	13,813

[単位：ton-CO₂]

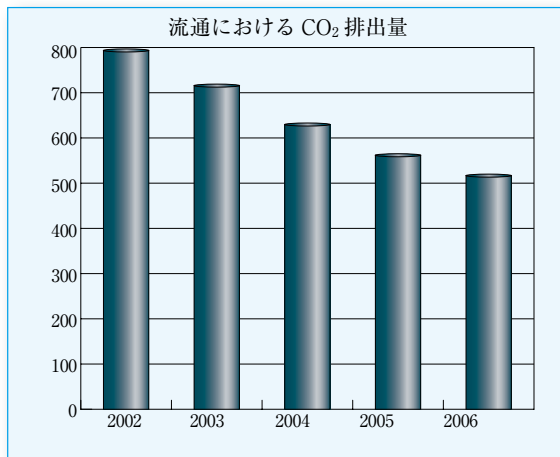
環境省の「ライトダウンキャンペーン」に参加。「ブラックイルミネーション 2006」にカワイはネオンサインの消灯で参加しました。浜松駅前ビルカワイピアノネオン舞阪工場屋上ネオン 2006.6.16 ~ 21 (夏至) の 6 日間で約 600kWh の消費電力の削減並びに CO₂ 削減に協力、2007 年も参加致します。



流通における温暖化対策

2006 年度の国内輸送量は 1,085 万トンキロ（内モーダルシフトによる列車輸送は 661 万トンキロ）で前年比 7% の削減となりました。この要因は効果的な積載方法の実施やコンテナ積み込みにおける梱包箱サイズの適正化などがあります。

CO₂ 排出量に換算しますと 520 ton-CO₂ となり、45ton-CO₂ の削減が図れました。



	単位	2002	2003	2004	2005	2006
計	万トンキロ	1,716	1,550	1,346	1,170	1,085
1 次	万トンキロ	1,642	1,482	1,288	1,119	1,038
2 次	万トンキロ	74	68	58	51	47
排出量	ton-CO ₂	797	719	633	565	520
1 次	ton-CO ₂	672	604	535	479	440
2 次	ton-CO ₂	125	115	98	86	80

輸送手段は大型トラックが主体ですが、600km を超える長距離輸送には、モーダルシフトによる列車コンテナや効果的なバン積みによる輸送（主に輸出品の国内搬送）も活用し負荷の低減を図っています。また「物流ルートの見直し」等による輸送効率を高める施策や梱包材再利用等の「物流費の削減」を、今後も続けていきます。

* モーダルシフト：トラック等による幹線貨物物流を、環境負荷の少ない大量輸送機関である鉄道貨物輸送・内航海運に転換すること（平成 18 年版 環境白書より）



国内出荷は梱包材を再利用グラントピアノには布団を使用し、再利用しています。

温暖化対策

(株)カワイハイパーウッド

塗装事業における環境配慮の取り組み

不良率改善による省エネ・省資源効果

塗装事業を行っている(株)カワイハイパーウッドでは、塗料による VOC 排出量、エネルギー消費及び不良品の廃棄物が大きな環境負荷として認識しています。塗装の中でも高級塗装を行っているため、品質基準は厳しく設定されています。

そこで、中郡工場は品質向上・不良率改善をととして、省エネルギーと廃棄物削減に取り組みました。

2006 年、塗装方法の大幅な改善を行いました。また、水洗ブース用水処理方法も合併循環型方法へ変更しました。

その結果、2006 年生産量は増加しましたが、不良率が改善されたことにより、エネルギー消費量は、絶対量で 12%削減、廃棄物絶対量も 17%削減されました。

また、水使用量 28%削減、揮発性有機溶剤 (VOC) 排出量も 33%削減され、環境負荷低減が図られました。経済成長 (生産高) しつつ、環境負荷 (エネルギー量、廃棄物量) を低減させる一つのモデルと考えられます。



塗装水洗ブース使用水を合併循環型方法に変更



2屋根を2重にして、冷暖房の省エネ対策

2005 年基準の 2006 年のエネルギー、廃棄物、VOC 排出量変化

エネルギー消費	廃棄物	VOC 排出量	水使用量
2006 年	12%削減	17%削減	33%削減
			28%削減

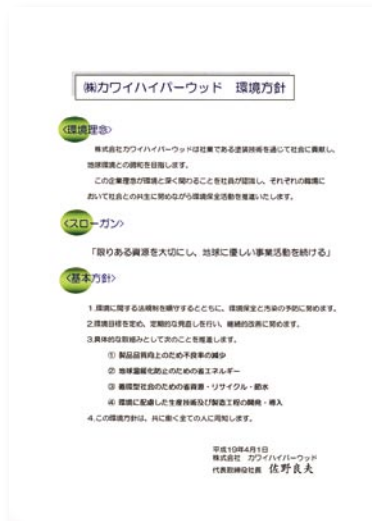
省エネ活動

(株)カワイハイパーウッドでは省エネ活動の一環として、ソーラー外灯を正門の両脇に 2 基設置しました。常夜灯として発光効率の高いコンパクト蛍光灯 18W が点灯しています。



エコアクション 21

2007 年は、更なる環境活動の取り組みをすすめるために、エコアクション 21 の取得を目指した活動に取り組んでいます。

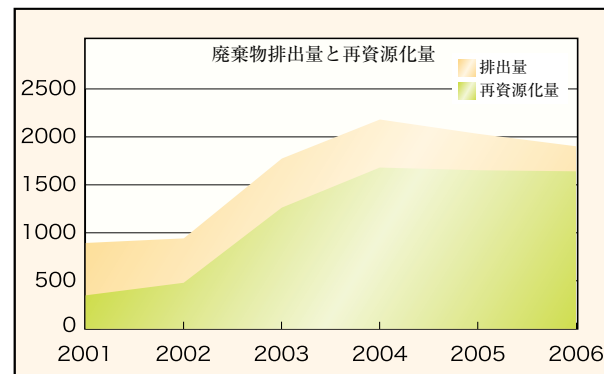


事業活動に伴う環境配慮

廃棄・再資源化

廃棄物削減と再資源化

廃棄物の削減と徹底した分別回収による再資源化を図ることが重要な使命と認識し活動しています。2003 年度から大気汚染の防止、ダイオキシン対策特別措置法の順守を目的に木屑ボイラー・焼却炉の廃止があり、今まで燃料としてサーマルリサイクルされていた木屑や木粉が廃棄物扱いとなったため廃棄物排出量が大幅に増加しました。しかしながら企業努力により木屑等は全て再資源化 (製紙原料、ボード原料、燃料用 他) しておりその比率も 86%と目標値の 77%を大幅に越えることができました。



	年度	2001	2002	2003	2004	2005	2006
再資源化量	ton	348	479	1,262	1,680	1,652	1,641
排出量	ton	894	942	1,774	2,181	2,032	1,902

環境教育

カワイでは環境経営実現のためには、教育が不可欠と考え、グループ員の環境教育・啓発に努めています。

ISO 取得工場では EMS に基づいた全員教育、各種専門教育を実施し継続的改善を進めています。



ブラッシュアップ



全員教育

階層別教育: グループワークにて専門教育を実施

容器包装リサイクル法

2000 年 4 月に容器包装リサイクル法が施行され、当社においては紙製及びプラスチック製の容器並びに包装にリサイクル義務が課せられました。(財)日本容器包装リサイクル協会と毎年リサイクル委託契約を結び再商品化の義務を果たしています。

2006 年度の再商品化義務量は 2,223kg 委託金額は 173 千円でした。当社の主製品である鍵盤楽器はお客様先まで搬送し、据付けることが殆んどのため再商品化の義務を負う容器や包装材はごくわずかであり、表に掲げた容器・包装材の多くは直営店で用いるショッピング袋やポリ袋などです。

容器包装の種類	単位	2005 年度			2006 年度		
		使用実績	回収量	再商品化	使用実績	回収量	再商品化
紙製容器	kg/年	12,237	116	185	11,580	90	235
紙製包装	kg/年	335	6	3	207	6	7
プラスチック製容器	kg/年	6,166	168	2,307	5,146	152	1,551
プラスチック製包装	kg/年	4,388	2,745	358	3,951	2,647	430
合計	kg/年	23,126	3,035	2,853	20,884	2,895	2,223
委託金額	円	241,286			172,994		



リサイクル・リユース

循環型事業として(株)ピアノリサイクルを 98 年に設置し、現在はリサイクルセンターが、お客様のニーズにこたえています。当社では熟練の技術者の手で古いピアノをリユースできるようにしています。塗装から組み立て、調律までと見た目はもちろんメカニックの修理も施して、古いピアノがまるで新品のように生まれかわります。

今では弾く人もなくなった思い出のピアノ、使わなくなったピアノを思い出とともに再生し、お客様に満足していただいています。

連絡先: リサイクルセンター 053-596-2112



リサイクルセンターで再生して甦った当社のピアノ RX-A を大変気に入ってくださっています。

環境パフォーマンス

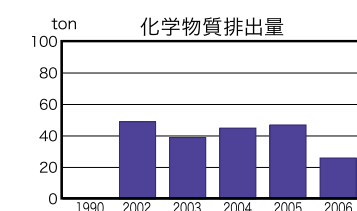
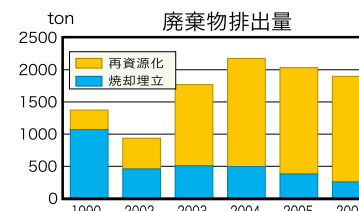
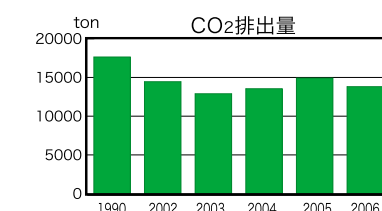
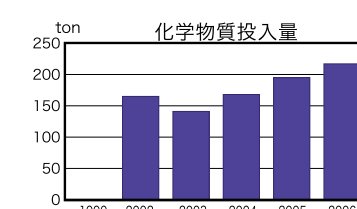
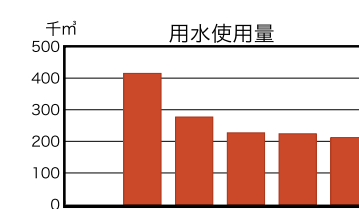
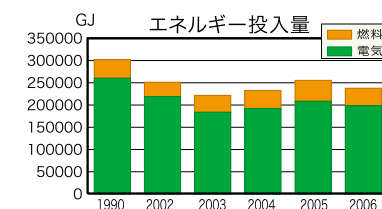
カワイグループは、企業活動が環境に及ぼす影響を認識しています。事業が環境に与える負荷を数値で把握することが活動の第一歩。

カワイでは、事業活動に伴って発生する環境負荷を把握し、そのおおよす影響を削減するために開発・設計・調達・製造から輸送、さらにお客様が製品を使用・リサイクル・廃棄に至るまでの各段階でどれくらいの資源・エネルギーを使用しているか、またどのような環境負荷が発生しているかについてデータ集計をしています。今後も把握の対象を広げ環境負荷の低減に取り組みます。

※1 算出に一部原単位を用いています。楽器事業と金属事業分を開示しました。

※2 購入電力からのCO₂排出量算出係数は0.555kg-CO₂/kWhを用いています。

※3 各事業場毎の排出量の集計でなく、使用量から推定しています。



Input

	楽器	金属
原材料		
木材 (千m³)		
製材品	12	
合板ボード	12.5	
金属 (ton)		
鉄	4,496	2,573
銅	104	9,461
その他	348	
プラスチック (ton)	463	

※1

	2006年	2005年
エネルギー (GJ)		
総計	237,763	255,456
電力	198,778	208,405
A重油	37,471	45,160
LPG	1,167	1,333
灯油	348	558

	2006年	2005年
化学物質 (ton)	217	195

	2006年	2005年
水 (千m³)		
総計	212	224
井水	129	135
水道水	34	38
工業用水	49	51

	2006年	2005年
燃料 (GJ)		
ガソリン	762	890
軽油	4,679	4,790

	2006年	2005年
容器包装 (kg)		
紙	11,787	12,572
プラ	9,097	10,554

エネルギー GJ
電 気 0.0
ピアノの演奏は人力のため、使用段階でのエネルギーは0と評価しました。又、電子ピアノ・オルガンについては演奏時間等の設定が困難なため、対象から外しました。

KAWAI

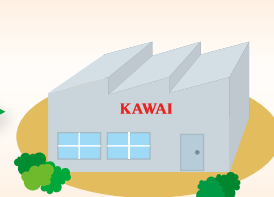
開発・設計



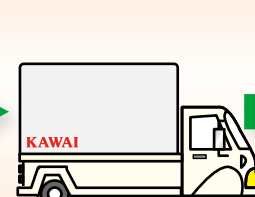
調達



製造



輸送



販売・サービス



お客様



リユース・リサイクル



Output

温室効果ガス (ton-CO ₂)	2006年	2005年
CO ₂	13,813	14,918

※2

排水 (千m³)	2006年	2005年
	170	179

※3

化学物質 (ton)	2006年	2005年
排出量	26	47
移動量	11	12

廃棄物 (ton)	2006年	2005年
総排出量	1,898	2,032
埋立	257	380
再資源化	1,641	1,652

有価物 (ton)	2006年	2005年
発生量	2,312	

温室効果ガス (輸送) (tonCO ₂)	2006年	2005年
	520	565

温室効果ガス CO₂ 0.0ton
アコースティックピアノにおける使用段階での排出は0と推定しました。電子楽器についてはINPUT同様の考えから対象から外しました。

容器包装 (kg)	2006年	2005年
	2,223	2,853

廃棄へ

事業活動に伴う環境法順守状況を自主管理基準値、測定結果とあわせて報告します

環境法規制 遵守状況

カワイグループに関する主な環境法規制を下表に示します。順法への対応において ISO マネジメントシステムを採用している事業場については順法評価結果を内部監査にて確認しています。その他の事業場（カワイ精密金属、ハイパーウッド）の順守確認は環境推進室が実施しています。また環境に関する法規制の訴訟・罰金・科料はありませんでした。また、関係当局からの指摘も過去 5 年間ありません。

環境法令		法の要求事項	順守状況	備考
大気	大気汚染防止法	ばい煙発生施設の設置届出	ボイラー等の設置届出済み	
	静岡県条例	粉じん特定施設の設置届出	吹付塗装設備等の設置届出済み	
水質	水質汚濁防止法	排水基準値の適用	自主管理基準値以下 *1	
	下水道法 浄化槽法	排水基準値の適用 水質検査 / 保守点検 / 定期検査	自主管理基準値以下 *2 基準値以下 / 実施済み	
騒音	騒音規制法	特定施設の設置届出 規制基準値の適用	空気圧縮機等の設置届出済み 自主管理基準値以下 *3	
振動	振動規制法	特定施設の設置届出 規制基準値の適用	空気圧縮機等の設置届出済み 自主管理基準値以下	
悪臭	悪臭防止法	規制基準値の適用	自主管理基準値以下	
組織等	特定工場における公害防止組織の整備に関する法律 工場立地法	公害防止管理者の選任 / 届出 特定工場の新設・変更の届出	該当工場にて届出済み	
廃棄物・化学物質	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ポリ塩化ビフェニル（PCB）の適正な処理の促進に関する特別措置法 特定化学物質の排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR 法）	産業廃棄物の運搬と処分の資格業者への委託 産業廃棄物管理票 PCB 廃棄物の確実かつ適正な処理の確保 特定化学物質の管理 排出量の把握及び届出	委託業者との契約の締結 マニフェストの管理・報告書 PCB 廃棄物の保管状況の報告 該当工場にて実施中 トルエン等の排出・移動量を報告済み	
リサイクル	容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法） 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）	再商品化義務量の把握 識別表示の義務化 分別解体と再資源化等の義務付け	紙製及びプラスチック製の容器包装量の把握 識別マークの表示 該当工場にて実施	
土壌	土壌汚染対策法	特定有害化学物質を使用する特定施設がある工場に対し、施設廃止時に土壌汚染調査を実施	義務はないが自主的に土壌汚染調査を実施	

自主管理基準

	法令値 協定値 等	自主管理基準値		測定値	
		舞阪工場	竜洋工場	舞阪工場	竜洋工場
*1	工場排水			6 月 14 日	11 月 9 日
	pH	5.8 ～ 8.6	5.8 ～ 8.6	7	8
	SS	30ppm 以下	16ppm 以下	5.0ppm	7.8ppm
	BOD	20ppm 以下	13ppm 以下	1.1ppm	7.9ppm
*2	下水道			6 月 14 日	
	温度	45℃未満	35℃未満	22℃	
	pH	5 ～ 9	5.2 ～ 8.8	8	
	n- ヘキサン	35ppm 以下	30ppm 以下	2.5ppm	
*3	沃素消費量	220ppm 未満	110ppm 未満	16ppm	
	境界線騒音			6 月 14 日	11 月 30 日
	昼	70 dB 等	69	63	58
	夜・早朝	65 dB 等	64	59	59
*4	深夜	60 dB 等	59	54	
	境界線振動				
	昼	70 dB 等	65	63	42
	夜	65 dB 等	60	59	(H17.8)



新中期経営計画の遂行により、企業体質の改善が進んだため、第 2 次中期経営計画では、着実な成長戦略への転換をめざします。

新中期経営計画のまとめ

財務体質の強化と株主の皆様への長期安定的な利益還元を図るため、2004 年 4 月より新中期経営計画をスタート致しました。同計画は経営体質をより強靱なものとするため、本業回帰を基本軸に経営資源を有効再配分し、より高い収益性、健全性、透明性を目指す経営体制確立のための改革とその実践を図るものです。

同計画の最終年度である当年度は楽器事業においては高収益志向販売および海外生産比率の拡大による原価低減、教育関連事業においては収益性拡大への構造改革、素材加工事業においては受注増加および原価対策に取組みました。この結果、当連結会計年度の売上高は 68,234 百万円となりました。利益につきましては、営業利益は 2,857 百万円、経常利益は 2,843 百万円となり、ともに過去最高益となりました。

「新中期経営計画」の最終年度の計画値に対しましては、売上高は 2,566 百万円、営業利益は 243 百万円下回りましたが、経常利益は 433 百万円、当期純利益は 1,299 百万円上回り目標利益を達成し、有利子負債は計画値よりさらに 8,149 百万円圧縮いたしました。

第 2 次中期経営計画（2007 年 4 月よりスタート）

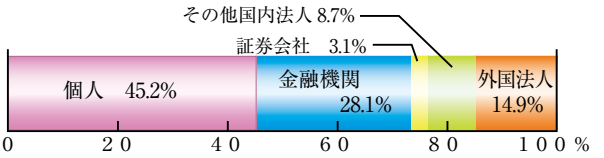
経営改善計画から新中期経営計画と延べ 5 年間にわたる経営計画の遂行により、企業体質の改善が進みましたので、第 2 次中期経営計画では着実な成長戦略への転換をめざします。

主要施策は、組織と情報システムの再構築を行い、業績把握の迅速化を測り、グローバル化した生産、販売活動において外部環境変化にタイムリーに対応する経営体とします。

1. 自立型組織の構築
事業セグメントごとに経営体として自立可能な組織を構築します。
2. ERP の導入によるスピード経営の実現
複雑化、分散化した基幹系情報システムを統合し、経営の効率化をめざします。
3. 新人事制度の導入
新たな人事制度をスタートする。特に人材育成を強化し、技術伝承の課題を解決します。
その他の施策として、CSR 経営を重視し、(1)法令順守、(2)内部統制、(3)環境への配慮、(4)社会貢献等に取り組みます。

株主の所有者別状況

2007.3.31 現在、当社の普通株式総株主数は 10,551 名で、個人に 45.2%、金融機関・証券会社に 31.2%、その他国内法人に 8.7%、外国法人に 14.9%の株式を保有していただいています。



新中期経営計画

1. 計画期間
2004 年 4 月 1 日～ 2007 年 3 月 31 日
2. 基本姿勢
企業価値の拡大と恒常的利益体質の構築
3. 基本方針
1 利益体質の確立
2 財務体質の強化
3 企業体質の改革

	初年度 実績	第 2 年度 実績	最終年度	
			新中計	実績
売上高	683	667	708	682
営業利益	21.6	24.6	31.0	28.5
経常利益	16.0	26.3	24.0	28.4
当期利益	12.2	32.9	18.5	31.4

[単位：億円]

第 2 次中期経営計画

1. 計画期間
2007 年 4 月 1 日～ 2010 年 3 月 31 日
2. 基本方針
1 経営構造の革新
自立型組織体制の構築と情報システム整備により、経営構造を事業単位に明確化し、外部環境変化に迅速に対応する。
2 持続可能な成長
強みを最大限に活かし、成長分野への経営資源の投入により主力 3 事業（楽器、教育関連、素材加工）で着実な成長を図る。
3 恒久的な利益確保
安定的に利益を確保し、株主への利益還元により企業価値の向上を図る。

	初年度 計画	第 2 年度 計画	最終年度 計画
売上高	675	702	740
営業利益	25	30	40
経常利益	22	27	37
当期利益	15	20	30

[単位：億円]

株式の状況

発行予定株式総数	普通株式	282 百万株
発行済株式総数	普通株式	86 百万株
株主総数	普通株式	10,551 名

情報の開示

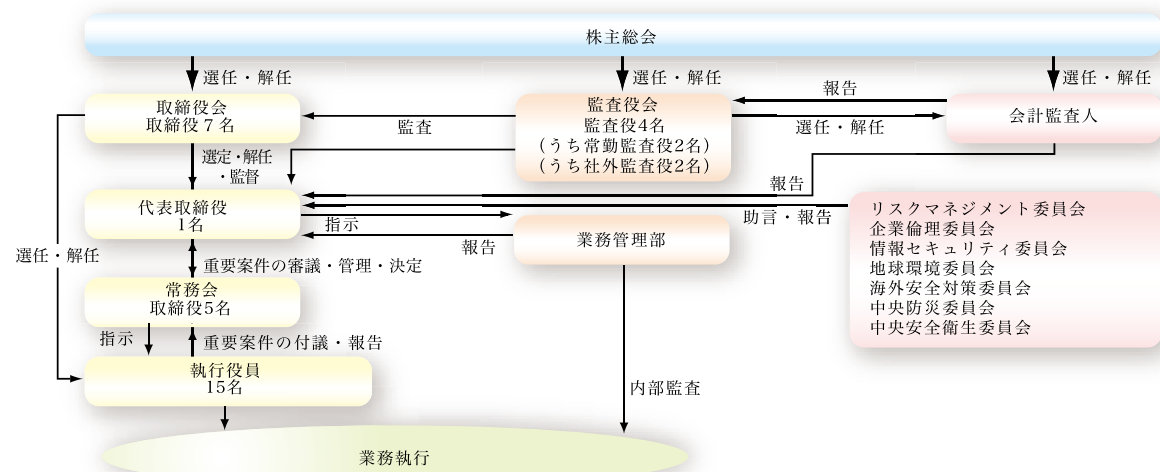
IR サイト <http://www.kawai.co.jp/ir/>
ステークホルダーの皆様にかわいの経営戦略や財務内容を開示し適切な企業価値へと結びつける活動（IR）の手段としてホームページに I R サイトを開示しています。

継続的に企業価値を高めていくには
コーポレート・ガバナンスの充実が最も重要な経営課題と捉えています。

コーポレート・ガバナンスの状況

当社は継続的に企業価値を高めていく上で、コーポレート・ガバナンスの充実を最も重要な経営課題として捉えており、そのためには株主・投資家の皆様、お客様取引先、地域社会、従業員等の当社を取り巻く様々なステークホルダーの皆様から信頼を勝ち得ることを目指す経営姿勢が重要であると考えています。

その実現に向け、カワイでは株主総会、取締役会、監査役会、会計監査人などの法律上の機能に加え、経営体制の改革、内部統制の整備等の様々な方策を実現させるとともにタイムリーな情報開示により公正で透明性の高い経営体制の実現を目指しています。



リスク管理体制の内容

当社のリスク管理体制は、業務執行に伴うリスクを未然に防止し、またリスクが顕在化した場合には、社会的、経営的な影響を最小限にとどめるため、職制により組織的に対応するものから必要に応じグループ全体を対象とした委員会を設置するなど機動的な対応に努めています。

主なリスク管理に関する委員会

● リスクマネジメント委員会

カワイグループ全体のリスクへの対応のために、規程類の整備、運用状況の確認、要員の訓練、研修等を企画実行するとともに全社リスク管理状況を定期的に取締役会に報告。傘下に下記の委員会を設置しています。また、不測の事態が発生した場合には「緊急対策本部」を直ちに設置し迅速な対応と損害拡大の防止にあたります。

● 地球環境委員会

カワイグループは1994年に地球環境委員会を設置し、地球環境の保全に積極的に取り組んでいます。地球環境委員会ではカワイ地球環境憲章、カワイ環境方針、グリーン調達ガイドライン、木材調達ガイドライン等を制定。また環境に関する法令の順守はもとより環境保全の目的・目標を定め環境汚染によるリスクの軽減に努めています。

● 海外安全対策委員会

海外子会社、海外駐在員並びに海外出張者のリスク管理を行っています。

● 中央防災対策委員会

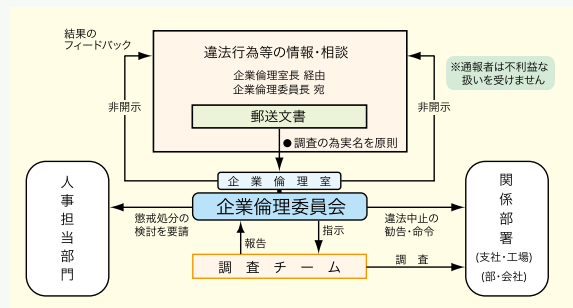
カワイグループにおける火災、風水害、その他の災害の予防対策確立及び災害発生時の被害を最小限に止めるための諸活動を行っています。

● 中央安全衛生委員会

カワイグループの従業員の安全衛生意識の高揚を図り、災害及び疾病を予防するための諸活動を行っています。

● 企業倫理委員会

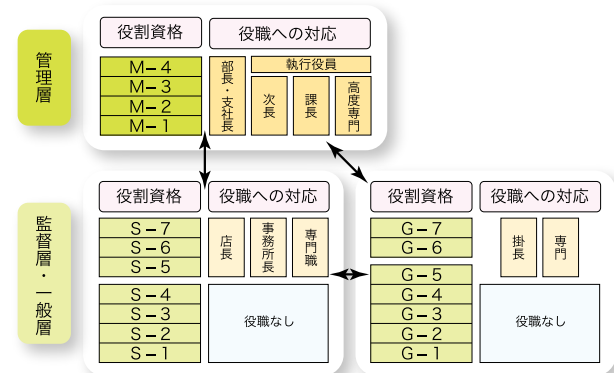
コンプライアンス経営を推進するため、法令順守に加え社会的な規範をも包含したコンプライアンス要綱(カワイ倫理規範、倫理行動規程を含む)を制定するとともに弁護士等外部有識者を加えた企業倫理委員会を設置しています。また企業倫理に関する統括部門である企業倫理室を主体に、企業倫理ホットラインの運営と従業員への教育、啓蒙によるコンプライアンス意識の向上に努めています。



社員を大切にし、明るい企業をめざします。

役割を基軸とした新人事制度の導入

2007年4月、新しい人事制度がスタートしました。全社員を「役割」を基軸とした「資格」に格付けし、「役割資格」に応じた評価基準や給与へのつながり等を明確にすることで、評価～育成～処遇(給与・異動等)のサイクルを好循環させ活気ある職場作りを目指します。



また、複線型の処遇体系とすることで、高い知識・技術・技能を発揮している者を「専門職」として、組織の長としての役割を担う者と同等の処遇を行います。

社員の主体的意欲に応える人材育成体系

育成の基本はOJTであり、PDCAサイクルをまわしながら、部下の成長を促す役割確認制度もその推進力の1つと考えています。

さらに、社員一人ひとりが上位資格への昇格に備えて準備していくことも重要です。役割資格を育成のステップと位置づけ、それぞれのステップで必要となる要件を充足していくための育成施策を人材育成体系として整備しています。

人事部門が主導する「階層別研修」、各部門主導で行う「職種別研修」、「自己啓発支援」といった項目ごとに、目的に応じたプログラムを実施し、主体的・積極的に能力開発にチャレンジできる風土を醸成しています。

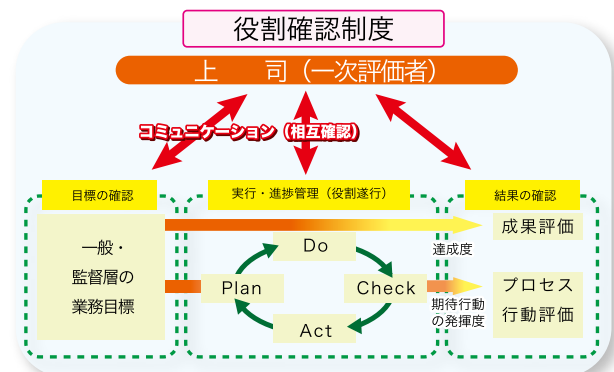
「バトンタッチ運動」で計画的な技能伝承

「技能保有者が、それまで体で覚えた知識・感覚を、若手に手渡しで伝えよう」を合言葉に、2007年2月よりバトンタッチ運動をキックオフしました。技能マップを整備すると共に、人や作業の変更時等伝承のサークルを確実に回すことで組織的・計画的に技能伝承を進めています。



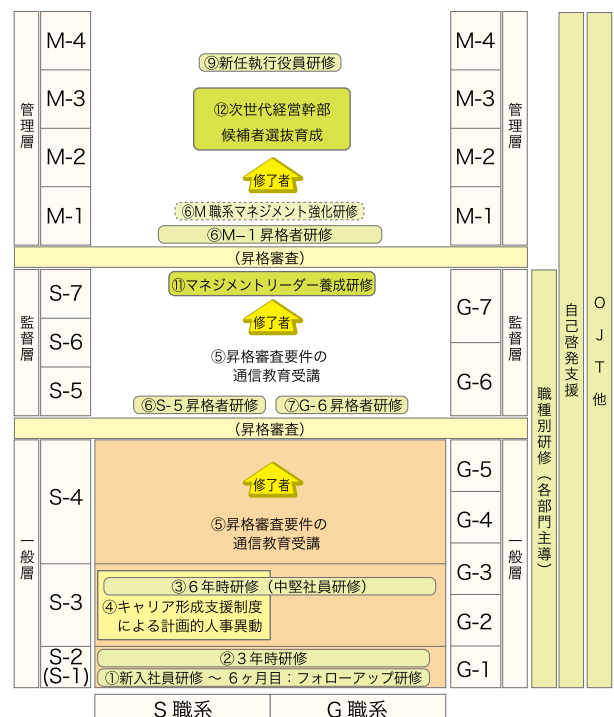
人材育成とも連動する役割確認制度

役割資格は、評価制度・給与制度など人事諸制度を有機的に結びつけるものですが、役割確認制度を通じて人材育成や業務運営の仕組みとも連動しています。新制度では、上司と部下との認識ギャップを埋めるためのコミュニケーション(相互確認)を重視しており、その適否が評価の納得性と公平性を高めるカギとなると考えています。



なお、評価制度は高い目標にチャレンジしなくなるといった成果主義の弊害に陥らないよう、「成果」と「プロセス行動」の両面からとらえることにしております。

人材育成体系図



メンタルヘルス

カワイでは、厚生労働省が策定した「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に基づき、各事業所の安全衛生委員会等において十分調査審議を行った上で「心の健康づくり計画」を策定しております。

また、その実施にあたってはメンタルヘルスカが継続的かつ計画的に行われるよう、関係者に対する教育研修・情報提供を行い、「4つのケア」を効果的に推進し、職場環境等の改善、メンタルヘルス不調者への対応、職場復帰のための支援等が円滑に行われるよう、全社レベルでメンタルヘルス対策に取り組んでいます。

労働安全衛生

カワイでは「安全で快適な職場環境の形成」と「健康保持増進活動の推進」を原点として次のような活動に取り組んでいます。

1 安全で快適な職場環境の形成

- 1) 労働災害発生時に必ず労使で現認し、協力して再発防止対策に取り組んでいます。
- 2) ヒヤリハットを抽出し、KYT（危険予知訓練）等を通じて危険を先取りし、危険ゼロを目指します。
- 3) 労使での職場パトロールにより不安全・不衛生状態をなくします。

2 健康保持増進活動の推進

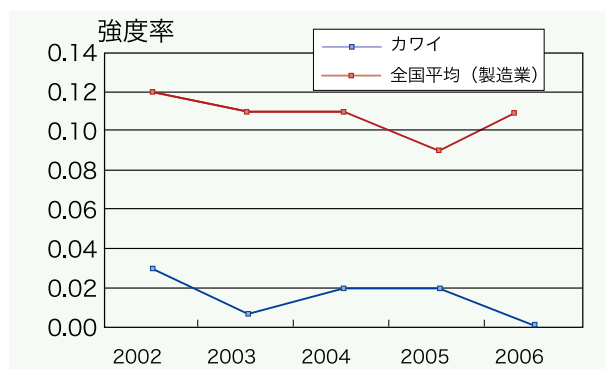
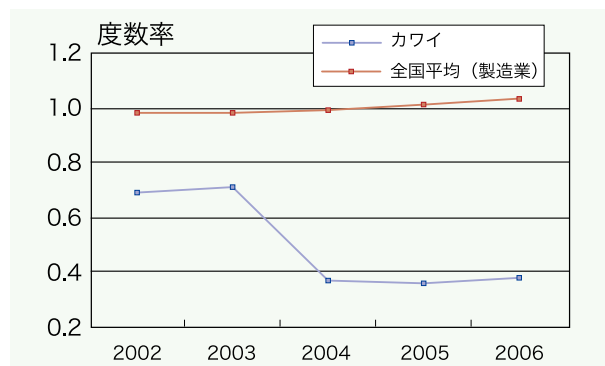
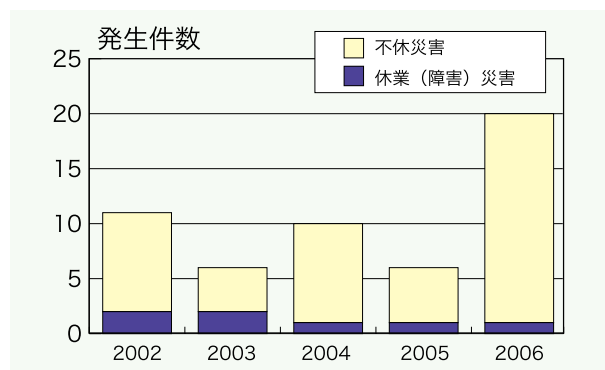
- 健康保険組合と体育事業部が連携し健康保持増進活動の推進に取り組んでいます。また各種の補助金を支給しています。
- 1) 健康管理・健康づくりに関する情報提供、奨励費の支給
歩け歩け運動：カワイヘルシーウォーキング
1,000 円補助（年 2 回）
事業所単位にて実施する健康づくり事業への補助
2,000 円～ 2,500 円
 - 2) 定期健康診断・生活習慣病検診後のフォローアップ
人間ドック等への補助 30,000 円
簡易脳ドックへの補助 20,000 円など
婦人科健診（被扶養者も対象）への補助 8,000 円
 - 3) 産業医等による毎月の健康相談
 - 4) 無料電話相談

2006 年度労働災害統計

2006 年度の発生件数は 20 件で、昨年度より 14 件増加しました。うち 1 件が障害災害でした。度数率、強度率ともに同業の製造業の全国平均を大幅に下回っています。

*度数率：労働時間 100 万時間あたりに発生する死傷者数

*強度率：労働時間 1000 時間あたりの災害によって失われる労働損失日数



お客様との関係

健康は笑顔の源。「心とからだのハーモニー」をモットーに、全年齢の健康づくりをサポートします。

お客様窓口

◎CS推進室

お客様との相談窓口をカワイ OSS（Quick Service Station）と名づけ、誠実な対応と迅速な対応を行うべく 1971 年よりその組織を発足させ活動しています。カワイ QSS 組織は事業企画部に本部を置き各支社に支部を配置しカワイのお客様相談窓口としての役割を果たしています。

お客様からの苦情対応、相談の受付等を行っています。

連絡先：お客様相談室 TEL:053-457-1311

◎調律サービス室

お客様のピアノの主治医“調律師”の技術集団。「ピアノは生きています」というと驚かれるでしょうが、ピアノには木材・羊毛・皮革など多くの天然素材が使われています。これらの材料はとても敏感で、温度や湿度の影響をまともに受けてしまうのです。またピアノの大部分を占める木材は常に呼吸をしている、まさに“生命体”なのです。そしてピアノほどデリケートなメカニズムを持つ楽器は他に無いとまで言われています。そこで私達が健康管理をするようにピアノにも“調律”という名のメディカルチェックが必要なのです。

カワイの調律師たちは厳しい訓練を受けた技術者で、ピアノの主治医として、ピアノを常にベストコンディションに保つためのケアをしています。

連絡先：調律サービス室 TEL:053-457-1253

防音室（ナサール）

気持ちよくピアノを弾くには防音だけでなく自然な反響音が重要です。詳しくは、まずホームページをご覧下さい。

「ナサール」は音を知り尽くしたカワイならではの高度な音響技術から生まれた新時代の防音・音響システムルームです。優れた遮音性能と音響性能そして卓越した木工技術を生かした内装・インテリアにより、理想の音環境を実現しました。簡単組立て低コストの「ユニットタイプ」から自由設計の「オーダータイプ」まで幅広いニーズに対応しています。

無料診断
無料見積
実施中

お気軽にお問合せください。
全国無料のフリーダイヤル
音の専門家が、責任をもってお応えします。
安心しておまかせください。

連絡先：株式会社カワイ音響システム TEL:0120-010-994

<http://www.kawai-os.co.jp>

カワイ ヘルスプロモーションサポートシステム

カワイ体育教室をスタートした健康づくりのサポートを全国で展開して約 40 年。このキャリアとノウハウを、社会に広く公開・提供したいと考えています。

未就園児から高齢者まで、楽しみながら健康の維持・増進を図り、しかも測定データや最新機器を駆使し科学的にサポートする独自のシステム、それが「カワイヘルスプロモーション サポートシステム」です。

さまざまなステージでの、健康づくりに役立ちたいと考えています。

対 象	システム
年 少 人 口	カワイ体育教室
生産年齢人口	カワイ健康づくりシステム
老 齢 人 口	カワイ介護予防システム

〈カワイ体育教室〉

2 歳児からの体育コースを中心に、器械体操、新体操、サッカー、水泳などのスポーツコースも展開。「心とからだ」をバランスよく育み、人生を健康で楽しく生きてくための基礎を身につけます。



0 歳 ————— 100 歳
総合健康産業
全年齢の健康を考える

〈カワイ健康づくりシステム〉

厚生労働省の「健康日本 21」を基にして健康調査・検査・集計・分析をし、個人の健康状態を的確に把握。そして改善目標値を明確にし、具体的な健康づくり活動を行うものです。これまで 10 万人以上の方々の健康調査を実施してきた実績をもとに、多様なカワイオリジナルのプログラムを用意しています。



〈カワイ介護予防システムの特徴〉

カワイと筑波大学との共同開発による、科学的根拠にも基づくプログラムの筋力トレーニングと遊びプログラム（調整力）を複合した 2 ウェイ方式にて支援・介護を必要としない健康寿命を伸ばすことをねらいとしています。

参加者の変化を随時把握する「体力測定」を導入。



お客様との関係

音楽文化の担い手として・・・

社会貢献活動

さらに広く、より深く音楽文化を醸成するために、カワイは楽器メーカーとして優れたハードづくりを追求するとともに音楽文化の育成やレベルアップといったソフトに関する活動を、長年続けています。音楽から生まれる感動をさらに多くの人へ、より深く伝えたい。……カワイの熱き想いは、さまざまな音楽シーンで着実に実を結んでいます。

文化・芸術への貢献

カワイ音楽振興会
カワイコンサート
日本ショパン協会への支援
クロイツァー記念会への支援
日本・ロシア音楽家協会への支援
日本フォーゴ・ヴォルフ協会への支援
日本シマノフスキ協会への支援 など

カワイ音楽振興会

日本の音楽文化の普及と向上を目指して1963年に設立。海外の著名な演奏家、教育指導者を数多く招聘し、リサイタルを開催するほか、公開講座、個人レッスン、講演会など多彩な催しを企画実施しています。

カワイコンサート

日本中のより多くの方々によりよい生の音楽を。このポリシーのもと、1971年からスタートした「カワイコンサート」は既に全国各地で2千数百回以上におよぶ公演を実施しました。国際的なピアニストから新進気鋭の若手まで多彩な演奏家を招き音楽のすばらしさを広めています。また、新人にとっては一流ピアニストへの登竜門として絶好の舞台となっています。

日本ショパン協会への支援

ポーランドのショパン協会との交流の元に設立された日本ショパン協会の活動を多角的に支援。音楽交流、ショパン国際ピアノコンクールへの審査員派遣、参加者オーデション等の活動を行っています。また年間最も優れたショパン作品の演奏をしたピアニストに対し日本ショパン協会賞を送っています。



連絡先：カワイ音楽振興会 TEL:03-3320-1671

教育・教室としての貢献

カワイ音楽教室・カワイミュージックスクール
カワイこども英語教室・カワイ絵画造形教室
カワイ体育教室・いきいき健康音楽
カワイ音楽学園 など

カワイ音楽教室

1956年発足。直営の教室が全国各地に5,000教室あり、14万人の生徒が通っています。年齢やレベルに合わせて多彩なコースが設定され、音楽の基礎能力を身に付ける導入過程からプロをめざす専門過程まで系統的なレッスンが受けられます。



カワイミュージックスクール

平均寿命の伸張に伴い、中高年の人々の生涯学習や余暇活動に対する関心が年々高まっています。カワイでは、こうした社会ニーズに対応し、ピアノ、フルート、バイオリン、大正琴、日本唱歌など、40種以上に及ぶ大人のための音楽教室を運営しています。いずれも自分の好きな曲をその人のレベルに合った内容で受講でき、またレッスンの回数や形式が選択できるなど、個性に合ったレッスンが受けられることから、多くの受講者を集めています。



カワイ音楽学園

2007年4月からそれぞれ40年を超える歴史を持ったカワイ音楽学園（音楽講師養成学校）とカワイピアノテクニカルセンター（ピアノ調律師養成学校）が統合して、音楽教室講師と調律技術者を養成する総合的な教育機関として生まれ変わりました。
・音楽教育学科・調律学科・音楽研究科
音楽講師養成課程では、自らの音楽活動と教育実践などから新たな発見と感動する心そして何よりも人と音楽の大切さを熟知した教育者として、たくさんの方が活躍されています。また調律師養成課程では、優れたピアノ調律技術者を組織的に育て世に送り出してきましたが、現在、国内はもとより世界の舞台においてコンサートチューナーとしても数多く活躍されています。これからも、音楽文化の担い手を育成していきます。

環境コミュニケーション

情報発信

多くの皆様とのコミュニケーションを大切にします。

情報発信

ステークホルダーの皆様には、カワイの環境等への取り組みの内容や環境パフォーマンスの成果、環境への配慮などを広く知っていただくため、環境報告書の継続的発行やインターネットによる情報の開示等を始めとして、地域にお住まいの皆様方、NPO・NGOの方々とのより良い信頼関係の確保、双方向のコミュニケーションの拡大に努めます。



ホームページでの開示

カワイのホームページではトップページから「会社情報」へ。「会社情報」から「環境への取り組み」に進んでいただけます。



環境報告書の継続的発行

カワイでは2001年より毎年、環境報告書を発行しています。

2004年からは社会性側面についても記載し多くの皆様に持続可能な社会の実現に向けたカワイの活動を知っていただくよう情報提供を続けます。



表参道にカワイの新しい顔が誕生 “カワイ表参道” リニューアルオープン



全国の当社直営店の旗艦ショップ店である“カワイミュージックショップ青山”（東京都渋谷区）を全面リニューアルし、2006年9月23日に“カワイ表参道”と名称を変えて新たにオープンしました。

表参道という集客力の高い好立地条件を有効活用し、カワイの商品を幅広く知っていただくための情報発信基地として、またカワイの顔＝広告塔として、カワイのブランド力を高めることにあります。

さらに各フロアごとのコンセプトを明確に区分し、お客様にピアノを弾いて、聴いて楽しんでいただける環境を整備しました。

2007年は、名古屋ショップなども随時リニューアルオープンしていきます。



環境保護活動への参加

各サイトそれぞれにおいて、地域活動へ参画しています。環境方針に即した活動を展開することにより、多くのステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図っています。

竜洋工場・舞阪工場

地域の学校の環境教育の一環としてなど、竜洋工場では多くの工場見学者を受け入れています。今年度も、環境に特化した見学は20団体 865名でした。その他の目的を含め見学者総数は2500人でした。



森の中の緑の工房

竜洋工場は、森の中の緑の工房（緑地を含んだ環境施設面積51,112㎡敷地の30.4%）と敷地内緑地の一般開放など地域との交流、貢献をしています。



磐田市立置田東小学校6年生
先日はピアノについて教えてくださいました。ありがとうございました。
とても勉強になりました。資料など、いろいろありがとうございました。
ピアノの作り方が見られて、とても楽しかったです。音の調律なども教えていただきました。とても良い経験になりました。またとない機会をどうもありがとうございました。また機会があれば行かせていただきたいです。本当にありがとうございました。

（「総合的な学習の時間」の学習として見学）

竜洋工場 見学者の声

環境経営を広めるために、取引会社の皆様へ環境省が策定したエコアクション21の説明会を行いました。



「浜名湖クリーン作戦」が今年度は2006.6.3に実施されました。浜名湖沿岸市町村にとって6月の環境月間の定番行事として恒例化しています。



本 社

ウミガメが来る浜にするため、ウエルカメクリーン作戦が毎年行われ、今年もカワイ音楽学園の生徒さん達が参加しました。環境授業の一環として地域貢献活動の重要性を再認識した活動でした。



メルヘン楽器

メルヘン楽器では環境方針に基づき各種の環境保全活動に積極的に参加しており地域の人々とのコミュニケーションを図っています。従前より毎月実施している地域環境活動の拡大キャンペーンとして8月に地元の川遊びスポット（吉川）の美化活動を実施しました。



本 社

「小さな親切」運動に取り組んでいます。「小さな親切」運動の「心の国際交流」事業に参加して、平成17年から平成18年まで使用済み切手・プリペイドカード収集活動を行い、発展途上国への支援を行ってきました。



2007年7月16日に発生した新潟県中越沖地震の被災者の皆様に対して、100万円の義援金を、日本赤十字社を通して寄付することを決定し、浜松市役所において、鈴木市長に手渡されました。当社におきましては、幸いにして負傷者は出ませんでしたが、従業員の自宅に被害が出たり、柏崎地区の音楽教室、体育教室が休校になるなどの影響がありました。被災地の一日も早い復旧をお祈りいたします。



カワイハイパーウッド

カワイハイパーウッドでは、2007年7月22日(日)に「河合楽器製作所創立80周年」をお祝いして、地域住民に開かれた手作り記念コンサートを開催致しました。社員の演奏に、訪れて下さった地元住民の皆様も「さすが河合の人達だね」と大変好評でした。

また、当日は中越沖地震のチャリティバザーも同時開催され、集まった義援金を寄付致しました。

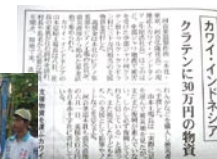


カワイインドネシア

2006年5月25日午前5時54分インドネシアで大きな地震がありました。従業員の中にもジョグジャカルタ近辺の出身者が30名ほどいることから日本で義援金を募り現地会社から被災村へ赴き、食料や復興用材料を村長さんに直接手渡しました。

この救援活動は現地新聞にも掲載され大きな反響となっています。村人の様子や子供たちの明るさに復興も早期にできると思われます。

また日本赤十字社を通じて河合楽器は100万円の義援金を贈っています。



環境負荷サイト別一覧

第三者意見

第三者意見としてのコメント



静岡大学工学部物質工学科
生物・環境工学講座 教授
中 崎 清 彦 様

本報告書は、「森の中の緑の工房」、竜洋工場での「ISO」取得、「製品環境宣言」の開示など、公害防止の時代から現在の環境問題に至るまでの環境に対する取り組みの歴史が長い河合楽器製作所の、環境に配慮した事業活動でありたいとした姿勢が伝わってくる内容となっている。

環境経営に関する記述では運用 23 項目のうち、22 項目で目標が達成されている。環境目標は努力すべき項目が明確で、重要な項目が余すところなく網羅されており、熱心な取り組みが高く評価される。

また、達成度も高い。個別の対策については、取り組みの一例として不良率改善による省エネ・省資源対策が紹介されているが、塗装方法の改善により大幅なエネルギー・廃棄物削減に成功している。生産量を増加させつつ環境負荷（エネルギー量、廃棄物量）を低減させるためには、製造法の精度を上げるなどの製造工程の改変が不可欠であるが、高い技術力がそれを可能にしたものと考えられる。

一方、環境経営の表には目標値に対しての達成値が大きすぎると思われる箇所が散見されている。予定よりも改善されたことは企業努力について評価すべきで、苦情を差し挟むべきではないかもしれないが、設定された目標値が充分に吟味されていなかったのではないかと思わせるものとなっている。また、目標を達成できていなかった化学物質使用量の削減については、今後の具体的な方策が示されていない。次年度の目標値の設定根拠とそれに至る道筋について言及すべきであろう。

また、環境パフォーマンスに関する記述については、詳細なデータが揃ってきており、熱心な取り組みの一端が見て取れる貴重なデータとなっている。資源・エネルギーのインプットとアウトプットが開発・設計からリユース・リサイクルまでを含めた総和としてまとめられているが、環境負荷の低減のために、どの段階を改善すれば最も効果的なのかをわかりやすくするために、各段階でのデータを分けて記述すれば、さらに役に立つデータとして利用できると思われる。

報告書は年々、体裁が改良されてきており、読みやすくするための工夫が見て取れるが、まだ、文字が小さく、カタカナ表記が多用されている。読みやすさ、わかり易さのためにさらなる工夫が期待される。報告書は、企業が日々、計画・実行・評価・行動の輪を廻し、如何に改善のレベルを上げてきたかの軌跡であり、また、これからの改善の方向を示す道しるべでもある。本報告書の取りまとめが、さらに高いレベルをめざした取り組みに繋がることを期待している。

第三者意見をいただいて

これまでの長年の環境に関する取り組みに対して評価して頂きましたので、今後さらに活動を継続し、より発展した取り組みにしていきたいと思っております。また、ご指摘いただきました、目標値の吟味、未達成事項に対する今後の具体的方策につきましては、次年度版に取り入れてまいりたいと思います。文字の大きさ、カタカナ表記に関しましては、わかりやすさを求めてさらなる工夫を今後すすめてまいりたいと思います。

				1990	2002	2003	2004	2005	2006	増減率
				参考	基準年			基準年比		
竜洋工場 静岡県磐田市 事業内容：ピアノ製造 敷地面積：168,218㎡	INPUT	電気	GJ	30,829	28,126	34,186	38,305	39,950	39,385	15%
		燃料	GJ	3,932	3,616	13,034	16,286	19,111	17,012	31%
		水	千㎡	1,568	43	33	36	34	34	2%
		化学物質	ton		35	30	34	37	28	-7%
		キシレン	ton		3	4	5	2		
			スチレン		ton	9	12	13	17	
			トルエン		ton	18	17	19	9	
	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	1,991	1,819	2,824	3,284	3,575	3,394	20%
		化学物質	ton		25	21	22	23	11	-47%
		廃棄物 焼却・埋立	ton	89	39	113	153	39	32	-72%
		廃棄物 再資源化	ton	9	35	266	418	444	498	87%

舞阪工場 静岡県浜松市西区舞阪町 事業内容：ピアノ 部品製造 敷地面積：42,218㎡	INPUT	電気	GJ	70,512	46,288	46,110	49,472	46,352	37,229	-19.3%
		燃料	GJ	24,321	11,738	11,243	11,218	11,719	8,164	-27.4%
		水	km ³	1,762	44.9	52.1	49.2	39.4	34.1	-34.9%
		化学物質	ton		55.5	42.1	40.2	33.8	33	-21%
			ton			1.72	1.46	1.50	1.70	
	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	5,641	3,404	3,360	3,545	3,407	2,649	-21.2%
		化学物質	ton		16.0	10.0	8.5	4.5	4.3	-54.0%
		廃棄物 焼却・埋立	ton	348.0	93.1	176.2	153.6	64.0	68.4	-61.2%
		廃棄物 再資源化	ton	93	179.6	768.3	1,040.7	915.8	736.8	-4.1%
			ton			4.82	3.37	2.32	2.50	

※工場統廃合により、面積が約 1 / 2 になりました。

カワイハイパーウッド 静岡県浜松市東区中郡町 事業内容：自動車内装部品製造 敷地面積：26,817㎡	INPUT	電気	GJ	14,787	10,228	10,828	15,404	24,003	21,629	99.8%
		燃料	GJ	11	4,067	3,755	5,945	7,725	6,219	65.6%
		水	千㎡	28.6	9.62	11.4	12.6	14.7	10.6	-7.0%
		化学物質	ton		30.40	24.1	37.0	58.7	47.6	97.5%
			ton			1.98	4.30	8.15	1.70	
	OUTPUT	キシレン	ton			18.58	28.31	42.99	43.30	
		スチレン	ton			3.56	4.40	7.55	2.60	
		トルエン	ton							
		CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	1,250	858	869	1,279	1,883	1,645	89.3%
		化学物質	ton		6.9	7.2	9.6	16.2	5.6	-22.2%
		廃棄物 焼却・埋立	ton	218.2	136.4	94.2	114.1	188.7	79.5	-15.6%
廃棄物 再資源化	ton	32.3	14.7	14.1	12.4	47.2	116.9	729.1%		

メルヘン楽器 静岡県周智郡町森町	INPUT	電気	GJ	3,914	3,551	3,247	3,482	3,397	3,299	1.6%
		燃料	GJ	74.7	56.0	16.1	14.8	14.7	11.1	-31.1%
		水	千㎡	0.60	3.55	3.50	3.83	2.70	3.02	-13.7%
		化学物質	ton							
事業内容：電子楽器製造 敷地面積：11,583㎡	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	223	201	182	195	190	184	1.1%
		化学物質	ton							
		廃棄物 焼却・埋立	ton	7.3	6.8	5.7	5.8	4.0	11.2	96.5%
		廃棄物 再資源化	ton	0.0	77.6	69.8	85.9	75.3	114.5	64.0%

KSK 浜松 静岡県浜松市北区新都田	INPUT	電気	GJ		27,417	29,265	31,883	34,274	38,671	32.1%
		燃料	GJ		17.0	18.0	14.9	12.6	14.1	-21.7%
		水	千㎡		66.1	21.7	20.6	21.4	20.5	-5.5%
		化学物質テトラクロロエチレン	ton		21.3	25.6	27.9	26.5	52.6	105.0%
事業内容：金属部品製造 敷地面積：26,817㎡	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂		1,527	1,630	1,776	1,909	2,154	32.1%
		化学物質	ton		1.1	1.3	1.4	1.3	2.6	100.0%
		廃棄物 焼却・埋立	ton		84.9	57.2	53.9	66.4	58.3	1.9%
		廃棄物 再資源化	ton		37.6	39.1	33.8	42.5	41.1	5.1%

KSK 松本 長野県松本市	INPUT	電気	GJ	57,070	40,852	35,718	39,511	47,565	48,784	36.6%
		燃料	GJ	7,132	8,517	6,071	5,373	6,359	6,350	4.6%
		水	GJ m³	42.1	87.4	91.4	92.0	98.9	100.3	9.7%
		化学物質テトラクロロエチレン	ton			17.1	26.7	39.0	55.8	226.0%
事業内容：金属部品製造 敷地面積：14,612m²	OUTPUT	CO₂ 排出量	ton-CO₂	3,674	2,877	2,417	2,579	3,097	3,165	30.9%
		化学物質	ton		1.0	0.8	1.3	2.0	2.8	250.0%
		廃棄物 焼却・埋立	ton		7.1	9.1	9.0	9.9	12.1	33.0%
		廃棄物 再資源化	ton		63.6	60.3	57.8	79.8	93.7	55.4%

本社 静岡県浜松市中区寺島町	INPUT	電気	GJ		10,628	10,086	10,418	10,032	9,781	-3.0%
		燃料	GJ		2,057	1,751	1,588	1,858	1,215	-30.6%
		水	千㎡		11.3	11.9	11.7	12.3	9.7	-18.5%
		化学物質	ton							
事業内容：事務、研究開発 敷地面積：6,784㎡	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂		728	677	685	682	623	-8.0%
		化学物質	ton							
		廃棄物 焼却・埋立	ton		8.9	10.1	1.7	0.0	0.0	-100%
		廃棄物 再資源化	ton		30.0	28.9	29.0	45.6	42.2	46.0%

2007 年版環境社会報告書の自己評価と 2006 年版のアンケート結果

2007 年版報告書の信頼性を高めるために自己評価を実施しました。

自己評価について

環境省で、環境報告書を作成・公表する事業者を対象に環境報告書の信頼性を高めるために事業者自らが、その評価を行う場合の一つの手法を詳細に、かつ、分かりやすく解説した「環境報告書の信頼性を高めるための自己評価の手引き」【試行版】が開示されましたので、対応しその結果を報告してカワイの自己評価とします。

自己評価結果報告書

- 評価実施者の氏名 内部環境監査チームリーダー 宮崎典彦
- 日付 平成 19 年 8 月 31 日
- 実施した手続きの内容 環境省「環境報告書の信頼性を高めるための自己評価の手引き【試行版】」に準じて実施
- 評価対象 自己評価の対象項目は次の通りです。

環境報告書ガイドラインの項目	頁
1 経営責任者の緒言	3
2 報告に当たっての基本的要件	2
3 事業の概況	1
4 事業活動における環境配慮の方針	7
5 環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績等の総括	8
6 事業活動のマテリアルバランス	15
7 環境会計情報の総括	9
8 環境マネジメントシステムの状況	7
9 環境に配慮したサプライチェーンマネジメント等の状況	10
10 環境に配慮した新技術等の研究開発の状況	6 他
11 環境情報開示、環境コミュニケーションの状況	24
12 環境に関する規制順守の状況	17
13 環境に関する社会貢献活動の状況	25
14 総エネルギー投入量及びその低減対策	15
15 総物質投入量及びその低減対策	15
16 水資源投入量及びその低減対策	15
17 温室効果ガス等の大気への排出量及びその低減対策	12
18 化学物質排出量・移動量及びその低減対策	11
19 総製品生産量、販売量	
20 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	14
21 総排水量及びその低減対策	15
22 輸送に係る換気用負荷の状況及びその低減対策	12
23 グリーン購入の状況及びその推進方策	10
24 環境負荷の低減に資する商品、サービスの状況	11 他
25 社会的取組の状況	18 他

5. 評価結果

評価対象項目について自己評価手続きを実施した結果、下記を除き問題となる事項はありませんでした。

記

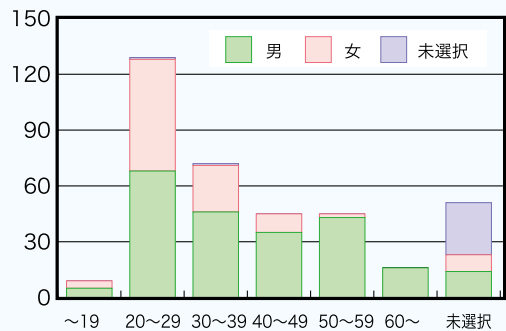
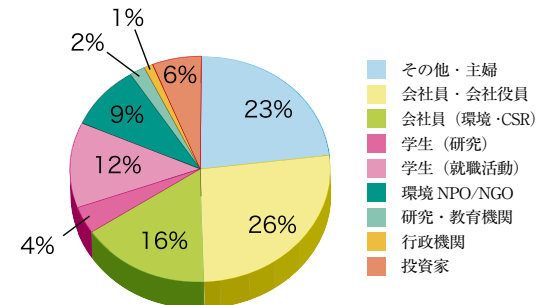
- 「総物質投入量及びその低減対策」におけるデータの集計は信頼性が不十分であり、かつ低減対策の記術を見出せませんでした。
- 「総排水量及びその低減対策」の集計方法に問題があり、正確な数値を示すことができませんでした。

6. 責任者のコメント

総物質投入量について、購買部門では今まで金額で把握していました。今後は質量で把握するようにし、その有効性・歩留等に留意し低減対策に努めます。

アンケート結果

3,500 部の発行に対し 18 件の回答をいただきました。0.5%の回収率でした。



2006 年版に対するご意見と 2007 年版での対応

◎カタカナ語を改善を加えたとのことですが、公共の目につれるものとしてはまだ、難解な部分があるように感じました。

♪読者層によっては奇異に感ずるカタカナ語の認識不足がありましたので、用語解説等を盛込みました。

◎活字が小さく読みづらい。ユニバーサルデザインの観点から、文字を大きくしてほしい。

♪盛り込む内容を多くしたいため、文字が小さくなってしまいました。今年度は、昨年度より文字を大きくしました。

◎報告書の全体的な構成がわかりやすく、読み進め易かった。

◎ISO14001 取得登録予定で活動しています。大変参考になりました。
♪貴重なご意見ありがとうございました。参考にさせていただきます。

加入団体において環境等の役務を担っているもの

静岡県環境保全協会、浜松市環境保全協議会、日本作業環境測定協会、静岡県産業廃棄物協会、全国楽器協会、全国楽器製造協会、静岡県楽器製造協会、静岡県産業環境センター、音楽電子事業協会、エコデザインラボ浜松、 など

最後までお読みくださいましてありがとうございました。今後の参考とさせていただきますので、下記アンケートにご記入の上、恐れ入りますが、この頁を F A X または郵送して頂ければ幸いです。

カワイ 環境社会報告書 2007 へのご意見・ご感想

Q 1 環境社会報告書をどのようなお立場でお読みになられましたか？

- | | | |
|------------------------------------|---|--|
| ☐ 投資家・株主として | ☐ 河合楽器と取引関係にある | ☐ 製品のユーザー |
| ☐ 政府・行政機関 | ☐ 環境 NGO・NPO として | ☐ 報道機関 |
| ☐ 企業の環境担当者 | ☐ 学生 | ☐ 環境専門家・教育者・研究者 |
| ☐ 事業所近隣の方 | ☐ カワイグループの従業員・家族 | ☐ その他（ ） |

Q 2 環境社会報告書を何でお知りになりましたか？

- | | | |
|--|---------------------------------------|-----------------------------------|
| ☐ ホームページ（当社・当社以外） | ☐ 当社からの送付 | ☐ 環境セミナー等で |
| ☐ 新聞・雑誌 | ☐ 営業マン・教室・先生から | ☐ その他（ ） |

Q 3 この環境社会報告書をお読みになってどのようにお感じになりましたか？

- | | | | |
|--------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| ・報告書のわかりやすさは | ☐ よくわかる | ☐ 普通 | ☐ わかりにくい |
| ・内容 | ☐ 充実 | ☐ 普通 | ☐ 物足りない |
| ・情報量 | ☐ 多すぎる | ☐ 適切 | ☐ 不足である |

Q 4 興味をもたれた記事、印象に残った項目は？（いくつでも）

- | | | |
|---|--|---|
| ☐ 表紙 | ☐ 環境パフォーマンス | ◎ 資料編 |
| ◎ はじめに | ☐ マテリアルバランス | ☐ 環境負荷サイト別一覧 |
| ☐ カワイの事業と会社の概況 | ☐ 法規制の順守 | ☐ 第三者意見書 |
| ☐ 編集方針／目次／ホームページアドレス | | ☐ 報告書自己評価結果報告 |
| ☐ 社長コミットメント／経営の理念 | | ☐ 2006 年版アンケート結果 |
| ◎ 8 0 周年記念 | ◎ 社会性報告 | |
| ☐ コーポレート・デザインの刷新について | ☐ 経営計画／新中期経営計画 | |
| ☐ カワイグループのあゆみ | ☐ 第 2 次中期経営計画 | |
| ☐ 環境に配慮した配慮した技術のあゆみ | ☐ コーポレート・ガバナンス | |
| | ☐ 組織で働く全ての人との関係 | |
| | ☐ お客様窓口 | |
| | ☐ カワイヘルスプロモーション | |
| ◎ 環境報告 | ☐ 社会貢献活動 | |
| ☐ カワイ環境方針／推進体制 | ☐ 環境コミュニケーション | |
| ☐ 環境経営 | ☐ 情報発信 | |
| ☐ 2006 年度の環境目標と実績 | ☐ 地域活動への参画 | |
| ☐ 環境会計 | | |
| ☐ 事業活動に伴う環境配慮 | | |
| ☐ グリーン調達 | | |
| ☐ 化学物質に関する配慮 | | |
| ☐ 温暖化対策 | | |
| ☐ 廃棄・再資源化 等 | | |

Q 5 環境社会報告書の内容についてのご意見や、改善するためのご提言をいただければ幸いです。

ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下欄をご記入下さい。

（個人情報に関しましては、ご本人の承諾がない限り第三者に開示することは一切ございません）

お名前	ふりがな		
	男・女	年齢	歳
ご住所 （勤務先・ご自宅）	〒 -		
ご連絡先	TEL FAX E-mail		
ご職業 （勤務先・部署・役職名）			

FAX 053-457-1250

アンケート用紙 株式会社河合楽器製作所 事業企画部 環境推進室行き

KAWAI

もっと伝えたい、感動を。

株式会社 河合楽器製作所

●お問合せ先

河合楽器地球環境委員会

事業企画部 環境推進室

〒430-8665 静岡県浜松市中区寺島町 200 番地

TEL 053-457-1252 FAX 053-457-1250

MAIL: kankyo@kawai.co.jp



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6% www.team-6.jp

カワイグループは「チームマイナス6%」に参加しています。



本環境報告書の用紙は、古紙配合率100%の再生紙で、白色度は80%。漂白のための塩素は使用せず、表面塗工および特殊コーティングも施していません。また、印刷インクには、「大豆油インク」を使用することにより石油系溶剤の使用量を減らし、VOC（揮発性有機化合物）が少なく、鉛・水銀・カドミウムなどの重金属類は使用していません。